タンザニアの現状から自分の生き方を考えてみよう

中山美江 NAKAYAMA MIE
社会
東和町立情島中学校（山口県）

実践教科	道徳・学級活動・社会
時間数	8時間
対象生徒・学年	2年
対象人数	4名（男子3名、女子1名）

カリキュラム

実践の目的

本研修に参加する前に、中学生全員に「アフリカと聞いて思い浮かぶものは？」と質問し、絵に描かせてみた。ほとんどの生徒がサファリの中の野生動物や布を巻いただけの人を描いた。そこで、中学1年生の地理的分野の授業で「タンザニア新聞」を作った。インターネットからダウンロードした資料やJICAの『国際協力』を切り貼りしたものだが、生徒たちは一様に「タンザニアってビルがあるんやね。」と驚いていた。それと同時に「HU JYANBO」と挨拶したり、「どんな食べ物があるんかね。」などと積極的に質問したりする生徒がほとんどだった。というのも、本校のほとんどの生徒たちは、さまざまな理由から児童養護福祉施設に入所している子どもであるうえに、離島で生活しているため、閉鎖的な環境である。よって、自分の知らないことへの関心・興味はとても高い。そこで、生徒たちが興味・関心をもつ情報や資料をできるだけ多く入手しようと張り切っていたが、私が現地で目の当たりにした現実に、興味・関心をもたせるだけでは足りないことを痛感させられた。

私自身、開発教育を人権教育の一環ととらえている。開発途上国の現状を題材に授業をするが、最終的には、どこの国の人であろうと、同じ人間同士が助け合って生きていく大切さを考え、実践力を身につけなければならないと考えている。そのため、「無知が偏見や差別を生む」ことがないように、できるだけ客観的な現実を伝えるよう心がけ、タンザニアの人々の生き方から自自分自身の生活や生き方を見つめ直すきっかけにしたいと考えた。

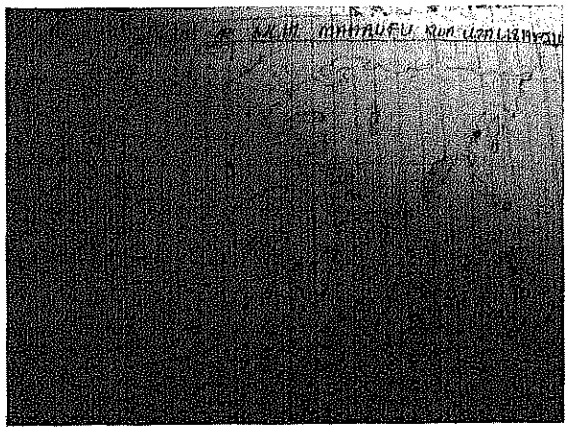
授業の詳細

1時限◈写真からたくさんの情報を読みとろう

フォトランゲージでは、各国の子どもの写真を主に選んだ。初めは、興味はもっているが多くの情報を読みとるまでは難しかった。しかし、慣れるにつれ、発展性のある質問をする生徒もいた。全体的に、写真から多くの情報を入手できるようになった。

2時限◈タンザニアってどんな国？①

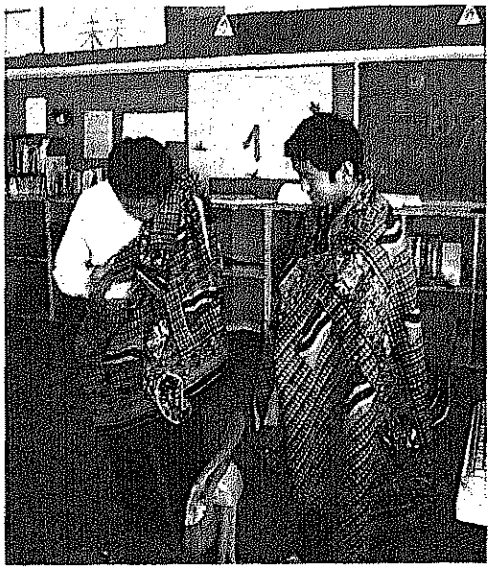
導入で、タンザニアの小学生が描いた世界地図（写真1）を見せると、「日本がない、おかしい。」と口を揃えていた。「では、タンザニアはどこ？」と質問し、現地で購入した英語表記の世界全図で位置を確認する



（写真1）　タンザニアの小学生が描いた世界地図

とかなり時間がかかった。そして、日本地図を書いたTPシートをタンザニアの地図の上に重ね面積を比べるなどの活動を通してタンザニアの概要を確認した。

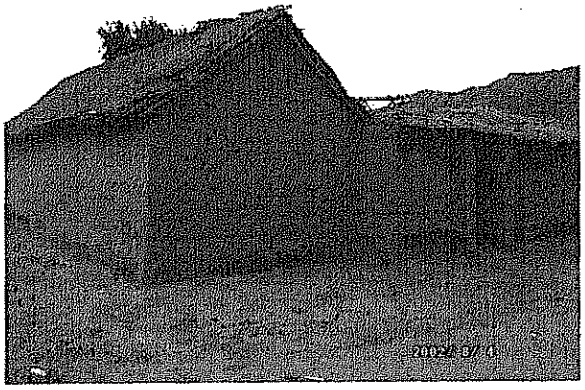
「衣」については、現地で購入した女性の衣装“カンガ”の使い方を予測し、実際に着てみた。(写真2)「食」については、食事の前に手を洗う写真から、右手で食べることを確認し、その理由をトイレの写真を見ながら考えさせ、宗教・上下水道の不備について説明した。「住」については、赤土の家(写真3)や孤児院の部屋の様子(写真4)から、気候・マラリア・医療について説明した。蚊が原因で死んでしまうことがあるという事実にはかなり衝撃的だったようだ。



(写真2)　タンザニア女性の衣装“カンガ”の試着

授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限 写真からたくさんの情報を読みとろう 次時からは、フォトランゲージを取り入れるので方法や視点を身につける。	フォトランゲージ	・JICAフォトランゲージキット ・世界全図 ・ワークシート
2時限 タンザニアってどんな国?① 衣食住を中心に、タンザニアの理解を深める。 ＊ 家庭科で調理実習(ウガリ、ムジチャ、スープ)を予定	1. フォトランゲージ 2. タンザニアクイズを解きながら概要をワークシートにまとめる。 3. カンガの着方を予測し着てみる。	・写真 ・実物教材(カンガ、アフリカで購入した地図) ・ワークシート
3時限 タンザニアってどんな国?② 文化・生活・習慣・風土を中心にタンザニアの理解を深める。	1. フォトランゲージ 2. ティンガティンガの絵などからタンザニアの文化や風土を知る。 3. まとめとしてビデオを見る。	・写真 ・自作ビデオ ・実物教材(ティンガティンガの絵、紙幣など)
4時限 タンザニアってどんな国?③ アフリカの歴史について理解する。 ＊ 黒人差別について社会科の歴史的分野で扱う。	1. 映画『アミスタッド』からアフリカの歴史(黒人奴隷貿易)を知る。 2. アフリカの発展の遅れについて考える。	・映画『アミスタッド』 ・写真 ・アフリカの地図 ・植民地時代のアフリカの地図
5時限 タンザニアから学ぼう① 飲み水を確保する難しさを体験することを通して、BHNが充実していないタンザニアの現状を想像し、「生きる権利」について考える。	1. 水瓶を使い、水くみを体験する。 2. 隊員の報告に基づき、泥水から飲み水を確保する。 3. BHNが十分に満たされていない現実を知る。	・ネパールで使用されている水瓶(JRCから借用) ・現地隊員の報告書 ・JICA資料
6時限 タンザニアから学ぼう② タンザニアが直面している“貧困の悪循環”を考える。	ウエビングの方法で、貧困がもたらす様々な問題を話し合い、相関図にまとめる。	・ワークシート
7時限 自分の生き方を考えよう① 自分の生活を振り返り、保障されている自分の「生きる権利」を見直す。	“貧困の悪循環”を示した相関図をもとに、保障されている権利を確認する。	・unicef資料 ・ワークシート ・手紙
8時限 自分の生き方を考えよう② 現地の隊員や専門家の活動の様子を知り、様々な生き方を学ぶことで、これから何をすべきかを見つめる。	1. 現地の隊員や専門家の活動のビデオを見る。 2. これまでの学習を振り返り、自分の生き方を見つめる。	・ビデオ ・JICA資料 ・ワークシート



(写真3)　赤土の家

(写真4)　孤児院の部屋の様子

「夏には蚊によく刺されるので、僕だったら死んでいるかもしれない。」「すごく怖いけど、タンザニアの人はどうしようもできないのでかわいそうだ。」「日本とは生活環境がずいぶん違う。日本は本当に恵まれている国だと思った。」などと感想を述べた。また、異文化理解という面においては、「楽しかった。」「世界にはいろんな文化があるとわかった」と感想を述べた。

3時限◈タンザニアってどんな国？②

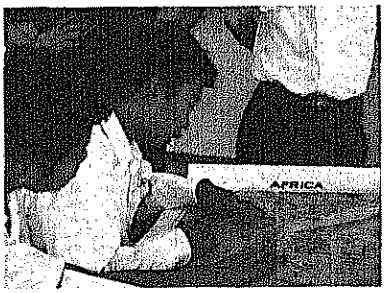
前時の感想に、「貧しい。」「かわいそう。」という感想が見られたので、最初に街の様子の写真を見せた(写真5)。特に、携帯電話が普及していることに驚き、印象が変わったようだった。都市と農村の差があるところは日本と同じような感じがするという生徒もいた。

次に、タンザニアの人々の生活が動物と深く関わっていることを紙幣から予想したり、ゾウの糞を何に使うか考えたりした。また、ティンガティンガの絵を見せて日本独自の絵と比べた。大型のハリネズミの針を「これは何か。」と聞くと、興味津々に触ったり臭ったりして、「ペン。」「化粧するときに使う物。」など予想していたが、答えを聞いてかなり驚いていた(写真6)。「動物の近くに住めてうらやましい。」「タンザニアって、いろんな動物が本当におるんやね。」と感動していた。

そして、タンザニアの生徒が『チューリップ』を歌う様子を見て、「うまい！」「1度しか練習していないのに何で歌えるん？」などと驚いていた。また、ムクワワ・セカンダリースクールの全校集会の様子(国歌、タンザニアの歌、校歌)を見て、画面に食い入るように見入っていた。「タンザニアの人と一緒に歌って踊ってみたい。」「スゴイ！！感動した。」と、タンザニアの人々のリズム感や音楽性に感心していた。また、「貧しいかもしれないけど、すごく元気で明るいと思う。」と言う生徒もいた。

(写真5)　タンザニアの街の様子

(写真6)　「これは何だろう…？」



(写真7)　アフリカの国名と宗主国

4時限◈タンザニアってどんな国？③

タンザニアの生徒の氏名（英語名＋スワヒリ語名）から、「なぜ、英語の名前が入っているのか」という質問を導入とし、アフリカの歴史について授業を展開した。まず、アフリカの地図を見て気がついたことを書かせた。「国境がまっすぐ。」「国が多い。」「国の中に国がある。」「アメリカと似た旗がある。」という意見が出た。「ニジェール（Niger）」と「ナイジェリア（Nigeria）」を例にあげ、国名と宗主国の関係などを説明した（写真７）。そして、アフリカ53カ国の中で、植民地にされなかった国はいくつかという質問をし、二カ国以外は植民地になっていたことを確かめさせると、アフリカの歴史の重さを感じたようだった。

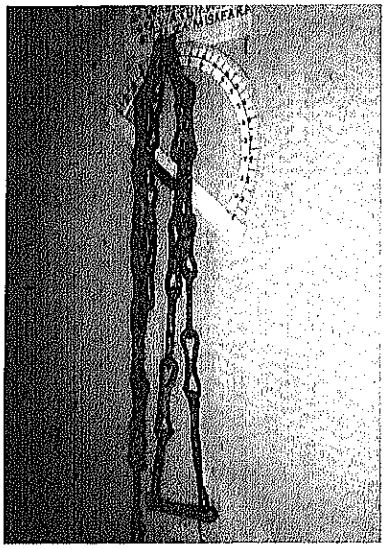
現地の小学校で使用されている歴史授業用教材の黒人奴隷貿易の鎖（写真８）を見せ、「何に使うか。」と質問したら、「貿易するときに荷物をまとめる。」という意見は出たが、生徒たちはまさか人間を繋ぐものとは考えつかなかったようだった。黒人奴隷貿易の説明をした後、S・スピルバーグ作品、映画『アミスタッド』の一場面を見せた。生徒たちは一言も話をせず、顔をしかめながら見ていた。生徒たちは、「かわいそうすぎる。本当にこんなことがあったとか信じられない。」「見ていて気持ち悪くなった。黒人は白人を憎んでいるのではないかと思った。」と感想を述べた。そして、「この奴隷貿易によってアフリカはどうなっただろう。」と聞くと、「働ける歳の人口が極端に減り、荒れてしまった。」と悪い状況を予想する生徒と、「あまりにもかわいそうだから、リベリアのように黒人の国が認められるようになった。」と改善していくことを予想する生徒に分かれた。そこで、アフリカの国々が独立し間もないこと、アフリカの大部分が開発途上国・後発開発途上国であることを説明し、次時につないだ。

5時限◈タンザニアから学ぼう①

JRC（青少年赤十字）から借りたネパールの水瓶を使い、水汲みを体験させた。事前にJRCの啓発ポスターに写っている水汲みをしている子どもの写真を見せ、気づきや感想をまとめた。

「これってどのくらい重いん？」「すごく痩せてる。」「どこで水を汲むん？」などの意見が出た。その後、水道から水を瓶に入れるのではなく、海水を汲んでみた。（写真９）それは、蛇口をひねって簡単に水を得るのではなく、水を得るために知恵を絞って方法を考えるとともに、苦労して汲んだ水がいかに大切なものかを感じてほしかったからである。

生徒の感想には、「本当に大変だった。」「こんなに重いものを小さい子が毎日運んでいるなんて信じられない。」「水って大切なんだと思った。」とあった。ち



（写真8）　歴史から学ぶもの

（写真9）　ネパールの水瓶を使って水汲み体験

なみに、学校近くの坂道を水瓶を持って上がらせようとしたが、水をこぼし、坂の頂上まで上がれた生徒はいなかった。

また、泥水から飲み水を確保する実験では、隊員の報告の通りに行ったが、全員が「飲めない。」「隊員の人ってすごいね。」という感想をもった。

6時限◈タンザニアから学ぼう②

「安全な水がない」ことをスタートとし、ウェビングを行った。以前の学活において、「波紋ゲーム」という方法で環境問題を考えたことがあるので、意外に意見が多く出た。このとき、「自分に似た経験があるなと思う人？」と尋ねると、4人中2人が手を挙げた。経験に基づいた意見にしろ、想像の範囲での意見にしろ、短絡的なつながりしか理解できていない状態であったので、ヒントを与え、派生する事象をより多く考えるよう促した。この際、教育の重要性に気づかせようとしたが、考えつかなかったようだった。

7時限◈自分の生き方を考えよう①

「貧困の悪循環」をまとめたunicefの資料を参考にして、前時で自分たちがまとめた相関図の見直しをした。そのあと、相関図の中の「脱水症状」、「お金がない」、「絶望」の3つを取り上げて具体的に「貧困の悪循環」を解説した。脱水症状で子どもが死んでしまうこと、また、9円で経口補水塩（ORS）が買え、それで子どもの命が助かることには驚愕していた。「お金がない」ことから、ストリートチルドレンを例に挙げ、教育の重要性に気づかせた。ちょうど本時の直前に、タンザニアのムクワワ・ハイスクールの生徒から手紙が届き、生徒宛の手紙が同封されていた。その手紙には、「自分は夢を叶えるために一生懸命勉強しています。」と書いてあったので、「なぜ、勉強したら夢を叶えることができるのか。」と質問をし、考えた。「文字の読み書きができるようになって、知識を身につけることができるから。」「いろんなことを知って、自分のできることが増えるから。」などという答えが返ってきた。生徒たちの考えを発展させ、教育による知識や技能の習得はもちろんのこと、教育によって自分の可能性を広げる大切さを説いた。

8時限◈自分の生き方を考えよう②

まとめとして、「人間が生きていくうえで、大切なことは何だと思いますか。」という質問をした。生徒たちは、「お金」「お金と心」「協力」「勉強・学校」と答えた。その理由として、「お金があれば何でも買えるし、生きていける。学校に行くにしてもお金が必要だ。」「人を助けたいと思う心は必要。それによって命が助かる人がいるから。」「一人だと生きていくのも難しいし、助けようと思っても一人の力では弱いから協力することが大切。」「勉強しないと文字の読み書きができないし、働けない。貧しいまま。」と述べた。

そこで、国家予算を軍備増強に費やし国民が苦しい生活を強いられている国や現地での隊員や専門家の活動など具体例を出し、“ハード”と“ソフト”の両方が充実することで人間らしく生きていけるのではないかと問いかけた。そして、自分たちの生活を見直したところ、「日本はハード面は充実しているけど、心が足りないような気がする。」「今の自分の生活は本当に恵まれていると思う。」「でも、やっぱりお金は大切だと思う。」「勉強することがそんなに大切とは思っていなかった。」などと感想を述べていた。

成果と課題

(1)タンザニアという未知の国に対する興味・関心は深まり、様々な視点からとらえることができたようだ。しかし、タンザニアを知ったからアフリカを知ったことにはならないと考えている。つまり、アフリカには様々な国があり、多様な民族が存在する。ましてや世界にはもっとたくさんの未知の世界がある。この授業をきっかけに、自分の知らないことを知り追求していく好奇心や喜びを感じ、広い視野で物事を見つめる態度を身につけさせたい。

(2)授業計画を立てる段階で、正直なところ、興味・関心をもつだけの内容になってしまうと危惧していた。しかし、生徒自身困難な環境で育ってきたためか、「生きる」ことの難しさや大切さを深く考え、感じることができたようである。この授業を通して、すぐに生徒の生き方が変わることは難しいことだ

が、自分の生き方を見つめるという目的は達成できたと思われる。

(3)これまでに海外旅行には行ったことがあるが、やはりその国の実情を深く理解することはできない。しかし、本研修では、病院や孤児院、学校などを視察でき、普段の旅行などでは到底見聞きできないことを経験することができる。このため、生徒には「生きた言葉」として伝えることができる。教師自身が経験し伝えることの大切さ、また、その責任の大きさを痛感した。

参考資料

- JICAホームページ『ぼくら地球調査隊』
- unicef『ユニセフと世界のともだち』
- 明治図書出版(株)
  「中学校「国際理解」ファックス教材集」
- 映画『アミスタッド』

参加動機およびプロフィール　中山　美江

私は曾祖父の代に朝鮮から帰化した家系です。幼少の頃、このことをとても恥ずかしく思っており、私は根強く残る偏見を気にして自分から韓国のことや生い立ちを知ろうとせず、目をそむけたままでした。ところが大学生の時、韓国からの留学生と知り合い交流が深まりました。そして「韓国人であろうと日本人であろうと同じ人間なんだなあ」という当たり前のことを実感しました。更にこの留学生の「韓国のことを本当に知ろうとしないといつまでも自分を好きにはなれないよ」という言葉に胸のつかえが取れる思いでした。その時から帰化したいきさつを祖父に聞いたり、ハングルを学び始めました。社会科教師となった今、広い視野で物事を見つめ、その背景さえも深く考えられるようになりたいと思いますし、そうできる子どもを育てたいと思っております。今回のタンザニアへの研修が自分にとって間違いなく実になる研修と信じています。国際理解教育への取り組みとしては前任校で選択社会科を担当した時に、「一番近くて遠い国」というイメージから「一番近くて親しみのある国」として子ども達に韓国をとらえてもらうべく、絵画交流を始めとしていろいろなことを試みました。

音楽、食から世界を考えよう
～「世界がもし100人の村だったら」を通して～

宮原　香 MIYAHARA KAORI
英語
鳥栖市立田代中学校（佐賀県）

実践教科	英語、学級活動、道徳
時間数	16時間
対象生徒・学年	3年
対象人数	32名（英語は全クラス5クラス）

カリキュラム

実践の目的

「世界がもし100人の村だったら」を文化発表会で朗読の形で発表し、世界のこと、自分のことを考えるきっかけを作る。世界平和をともに考える姿勢を身に付けるために、英語の授業ではタンザニアの文化、特に「音楽」を通して人権問題を取り上げ、Peaceを学級目標に掲げている私のクラスでは社会の公民で学習した南北問題を「食」を通して考える。

授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限 （英語）タンザニアを知る 今後の英語学習にタンザニアで得たことを還元したく、2学期の授業の流れとともにその旨を伝える。	1. 購入したCDを聞きながら、アフリカのイメージを自由に言う。 2. 購入した地図を利用して、場所の確認をする。学校便りに載せてもらったタンザニア紀行についてのコメントをする。 3. 授業でタンザニアで得たことを音楽等も取り入れて学習を進めていくことを伝える。	・購入してきたCD ・地図（世界地図、アフリカの地図） ・雰囲気作りにアフリカで購入した彫り物やカンガ
2時限 （英語）キング牧師について 佐賀県英語暗唱大会の課題であるキング牧師についての英文を読み、人権について考えるきっかけを作る。	1. 佐賀県英語暗唱大会の課題であるキング牧師についての英文をALTとともに読む。 2. タンザニアの日本大使館で聞いた大使の言葉を伝え、単に黒人問題だけでなく、人権問題だということに気付かせる。 3. 暗唱大会の学年代表をオーディションで決定していく旨を伝える。	・佐賀県英語暗唱大会の課題（I have a dream.） <NEW CROWN Lesson 6 より> ・インターネットからキング牧師が演説している様子などの写真
3時限 （英語）「世界がもし100人の村だったら」 発展途上国のことを考えるきっかけを作り、青年海外協力隊の存在を知る。「世界がもし100人の村だったら」を読み、自分達のこととして世界のことを考えるきっかけを作る。	1. 授業で取り組んでいる英語によるスピーチの模範として、バングラデシュで青年海外協力隊として活躍している姉を持つ次郎のスピーチをビデオで見る。人口、食料、エネルギーなどの問題を、グローバルな視点から考える。 2. 「世界がもし100人の村だったら」の英文を読み、本文の訳で空いている所を埋める。読みながら、世界のこと、自分のことを考えるきっかけを作る。文化発表会で「世界がもし100人の村だったら」の発表を3年生全体として取り組むことを伝える。ステージ発表は英語と日本語による朗読をし、展示発表も一緒に取り組むので参加者を募集していることを伝える。	・What is our future? <New Horizon Let's read4（東京書籍）昨年度まで使用> ・ビデオ ・パネル ・「世界がもし100人の村だったら」の本 ・「世界がもし100人の村だったら」のCD ・南半球が上になっている世界地図

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
4時限 （英語）文化発表会の反省 文化発表会での「世界がもし100人の村だったら」のがんばりを賞賛する。展示発表であった韓国や中国の民族衣装をはじめ、タンザニアコーナーの写真から民族衣装を取り上げる。	1. 文化発表会で「世界がもし100人の村だったら」のステージ発表と展示発表を取り組み、全校生徒だけでなく、地域の方など多くの方から反響があったことを伝える。 2. 展示発表に韓国や中国の民族衣装があり、そこで使っていた英語（過去分詞の後置修飾の用法）を導入をする。 3. 展示発表でタンザニアコーナーで写真を展示していた中から、タンザニアの民族衣装を紹介し、実際に試着する。	・文化発表会で民族衣装の説明をしてた英文 ・タンザニアの男性・女性の民族衣装 ・タンザニアで買ってきたCD
5時限 （英語）人権 ジェンダーの立場から、教科書に出てくる職業名以外にいくつかをALTと一緒に覚え、人権問題を考えるきっかけを作る。	1. ジェンダーの視点から世界的に見なおされている職業名（police officer, chairperson など）をワークシートを使ってペアーでディスカッションをしながら解く。 2. ALTがジェンダーの視点から作った人権クロスワードゲームをグループで行う。 3. 世界の動きに注目をしながら、教科書に出てくる職業名以外にも職業名を覚えていこうと促す。	・人権の立場から作った職業名のワークシート（2種）（資料1）
6時限 （英語）人権 千葉敦子さんのエッセイや南アフリカ、そしてタンザニアの国歌を通して、人権について考える。	1. 前時に覚えた職業名の復習をした後、千葉敦子さんのエッセイを英訳したものを読み、ジェンダーの視点から差別を考えるきっかけを作る。 2. 南アフリカの場所やアパルトヘイトのことなどにふれた後、ゴスペル風に歌っている南アフリカの国歌を聞き、間奏で人権について訴えている部分をディクテーションする。 3. タンザニアやザンビアなど歌詞は少し違うが同じメロディーであること知らせ、タンザニアの学校で全校集会で聴いた愛唱歌を聴いて感動した話などをする。まとめに、クラシック風に歌っている南アフリカの国歌を聞きながら、人権問題についての自分の考えを書く。	・千葉敦子さんのエッセイ（「学習集団をエンパワーする30の技」明治図書より） ・購入してきた南アフリカの国歌（2種）（資料2）
7時限 （道徳）ジェンダーフリーを目指して女性と仕事から入り、女性差別について考える。	1. 「世界がもし100人の村だったら」の朗読を聞きながら、男女の比率を思い出し、「ちがいのちがい」（「わたしらしく生きる男女平等と自立教育のために」<福岡市市民局女性部女性企画課>）をペアーで行う。 2. フォトランゲージをグループで行った後、タンザニアの女性の様子を写真で見ながら、途上国の女性の1日と、宿題として書いてきた自分にとっての身近な女性の1日の生活を比較し、ほとんどが仕事に費やしていることを知る。 3. ジェンダー視点から書かれた「モモタロー・ノー・リターン」を読む。	・「世界がもし100人の村だったら」のCD ・「女性と仕事」（「地球市民教育のすすめかた―ワールド・スタディーズ・ワークブック」<明石書店>） ・ちがいのちがいのワークシート ・「モモタロー・ノー・リターン」（奥山和弘先生作）
8時限 （英語）人権 タンザニアの教育について知り、教室のなかでの人権を自分の問題としてとらえる。	1. タンザニアで訪問した4つの学校の様子を話し、その後グループで写真や使用している教科書等を見る。 2. 佐賀県人権同和教育研究会会長の内田先生がアメリカ研修後に持ち帰られた『教室内での人権』について、英語のワークシートを日本語を見ながら埋める。その後、ALTによる朗読を聞きながら答えを合わせるとともに、自分自身のことを振り返る。	・タンザニアで訪問した4校の写真 ・購入してきた教科書 ・「教室内の人権」ワークシート（英語と日本語）（資料3） ・「教室内の人権」を吹き込んだMD
9時限 （道徳）ジェンダーフリーを目指して性別役割分担を見直し、生活的自立について考える。	1. ジェンダー視点から書かれた「モモタロー・ノー・リターン」の感想を何人か読み、前時を思い出す。	・「我が家の自立記念日」（「わたしらしく生きる男女平等と自立教育のために」

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
	2. 田代中学校はジェンダーフリーか考える。 3. 「我が家の自立記念日」を使って、グループでロールプレイを行う。	＜福岡市市民局女性部女性企画課＞
10時限（道徳）外国人排斥感情 日本人には外国人排斥感情があることに気付き、自分を振り返る。	1. アイスブレーキングとして、日本における外国人登録者数や国別ランキング等について「部屋の四隅」をし、本時の内容を知る。 2. ペアーで外国人差別の具体例を示すカードを用いながら、一人は外国人排斥感情を持つ人、もう一人はそうではない人としてロールプレイを行う。	・外国人差別の具体例を示した5種類のカード（「多様性トレーニング・ガイド人権啓発参加型学習の理論と実践」＜解放出版社＞）
11時限（学活）多文化共生 「中国からの贈り物」、「小さな留学生」のビデオを見て、共生していくことの大切さを知るきっかけを作る。	1. 「小さな留学生」を作った監督の姿を描いた「中国からの贈り物」を観る。 2. 「小さな留学生」を途中まで観る。 3. 感想を書きながら、隣のクラスの中国人の生徒のことを思い出し、共生していくことの大切さに気付かせる。	・「中国からの贈り物」、「小さな留学生」の録画ビデオ（フジテレビ）
12～13時限（学活）コーヒー コーヒーを通して、発展途上国の農民が抱える様々な問題を知り、南北問題を考えるきっかけにする。	1. タンザニアで最も輸出量が多いコーヒーについて、グループでクイズを解き、基礎知識を確認する。 2. 「アロマ村のコーヒー農園」のシミュレーションゲームを行う。 3. シミュレーションゲームをしての感想を聞きながら、発展途上国の農民が抱える様々な問題を知る。	・「コーヒーQ&A、アロマ村のコーヒー農園」（開発教育協議会） ・コーヒーの実の写真（JICAフォトランゲージキット） ・生豆 ・世界地図 ・タンザニアで買ってきたものと多国籍企業のコーヒー数種
14～15時限（学活）バナナとコーヒー バナナとコーヒーから南北問題を考える。	1. ウガリなどタンザニアで食べてきたものの写真を見せながら紹介する。タンザニアでよく食べられるバナナについて話をし、今日のテーマを知る。 2. 「バナナ農園で働く人々」のロールプレイをグループで行う。 3. 価格や農薬のことなど一本のバナナから見えることを考える。 4. 「コーヒーの秘密」のビデオを見る。 5. バナナとコーヒーから南北問題を考え、考えを共有する。グリーンコープが取り組んでいるネグロス島のバナナを伝え、フェアトレードのことを紹介する。	・タンザニアで食べたものを写した写真、（ウガリは粉のままの本物） ・「バナナ農園で働く人々」（マジカルバナナ＜グローバル市民基金「地球の木」＞） ・世界地図 ・「コーヒーの秘密」（アジア太平洋資料センター）
16時限（学活）食を通して世界を考える 公民で学習した南北問題、世界平和について、野菜や果物（バナナ）など身近な食から考える。ピーターズ地図から南北問題を捉え世界平和とはどういうことか考える。	1. アイスブレーキングとして生徒に身近なマクドナルドのハンバーガーを取り扱った。世界のマクドナルドの様子が載ったチラシをペアーに渡し、特徴等を発表させる。最後に日本の事情、特に低価格がなぜ可能になっているのかを流通の面から考える。 2. 「日本に運ばれてくる野菜」から読み取れることをグループでディスカッションする。 3. 多国籍企業のバナナと前時に学習したネグロス島のバナナの食べ比べを行う。 4. 世界地図をみることでも南北問題について考え、北半球と南半球の富や食料の配分の格差がなぜ大きいのか自分なりの考えをまとめて、学習を振り返る。 5. 「今、目の前にあるあなたの朝食は世界中の人々の手によって運ばれてきたのです。」というキング牧師の言葉を紹介する。	・マクドナルドミュージアムから頂いた資料（世界23カ国） ・「世界中から運ばれる野菜」（月刊オルタ2002年3月号） ・「世界地図の錯覚」（多様性トレーニング・ガイド＜解放出版社＞） ・世界地図 ・ネグロス島のバナナ

授業の詳細

1～4時限◈

1学期の終業式で校長先生により私のタンザニア研修の件を紹介された。2学期始め、学校便りに「タンザニア紀行」と題し、全校生徒にタンザニアの印象等を知らせる形から私の取り組みは始まった。文化発表会では3年英語として「世界がもし100人の村だったら」を発表をする中でタンザニアで得たことを全校生徒に還元したいと思い、以下の取り組みを行った。

私は、3年全クラスの英語の授業を担当している。2学期初の授業でタンザニアで得たことを音楽等を通して、還元していきたいという旨を生徒に話した。購入してきたCDや地図、彫り物などはその雰囲気作りに最適であった。2限目として、今年度の佐賀県英語暗唱大会の課題（I have a dream.）であるキング牧師の演説をALTとともに読んだ。さいごに、タンザニアで大使の「ブラックとイエローは同等という観念は今だに残っていると思う。」という言葉を紹介すると生徒は単に黒人差別というだけでなく、自分達のことにも関わるものとしてとらえたようだった。この時期に「Housework in my family.」という単元を通して、スピーチの学習をやり、一人ずつ発表をさせることにした。その模範を3限目にバングラデシュで青年海外協力隊として活躍している姉を持つ中学3年生のスピーチ（What is our future?）のビデオを見せた。その後、簡単にスピーチの内容をパネルを利用しながら説明したが、生徒はその内容にとても関心をもった様子だった。その後、「世界がもし100人の村だったら」の英文を読みながら、穴埋め形式で日本語訳を行った。答え合わせは、「世界がもし100人の村だったら」の朗読CDを使って行い、その絵本も回覧した。そして、文化発表会で3年英語として日本語と英語によるステージ・展示発表を行うのはどうかと生徒に投げかけた。授業後、普段興味を示さない生徒もこの企画に興味を示した様子で、絵本や授業で使ったパネル等見に来た。

この時期、放課後は佐賀県英語暗唱大会の学年発表を決定するためオーディションも行っていた。オーディションを繰り返していくうちに、文化発表会の英語朗読に挑戦をしたいという意欲的な生徒が増えてきた。そして、ステージ発表として出演希望者が31名、音楽担当者3名、展示発表1名の総勢35名が集まった。（前日に自主的に展示の手伝いをした生徒もいた。）ステージ発表者は希望をとり、朗読の担当パートを決めた。人前で発表をすることが苦手な生徒もいたが、ALTの協力のおかげで約10日の練習で、何とか形になった。最初のナレーションに1、2年生は総合学習の時間にホンジュラスに青年海外協力隊員として派遣された本庄小学校の馬場淳子先生の講話を聞いたことや私がタンザニアに行ったことなどを紹介してもらった。本校には2人の中国人の生徒がいるのだが、そのうちの一人がステージで世界で最も話されている中国語（北京語）を紹介することに挑戦をした。それは、朗読の途中に対話形式で中国の文化（遊び等）を中国語で紹介し、その後出演者の名前を中国語で読み上げ、一人一人紹介をするというもので、このことがその生徒のセルフエスティームを高め、まわりの人がこの生徒への見方が変わったのは想像以上のものであった。感動的なステージとなり、出演者だけでなく、1、2年生や先生方などの多くの方からすばらしい発表だったとお褒めの言葉を頂いた。展示では本の内容、世界で使われている主要言語、中国語の発音、タンザニア紀行として私が撮影した写真、JICAや青年海外協力隊のパンフレット、地雷のことなどを取り扱った。特に福岡NGOネットワークに所属するカンボジア地雷撤去キャンペーンのポスターや本はインパクトがあり、地雷について考えるきっかけになったようである。（写真1、2、3、4、5、6）

＜文化発表会出演者の感想（抜粋）＞

- 朗読に参加してよかったと思いました。聞いていた人達が感動してくれたし、自分がどんなに恵まれているかにも気付いたので、本当によかったです。
- 学校のみんなだけじゃなくて、もっとたくさんの人たちにきいてほしいメッセージだった。練習は大変だったけど、参加して本当に良かったと思った。
- 内容をしっかり理解してみんなに伝えられるようにがんばりました。だから、終った後に涙が出るくらい感動しました。

・裏方で音楽の担当をしました。文化発表会を見ていた人が世界の人々みんなを自分の家族のように大事に思ってくれたらうれしいです。

＜文化発表会で見ていた3年生の感想（抜粋）＞

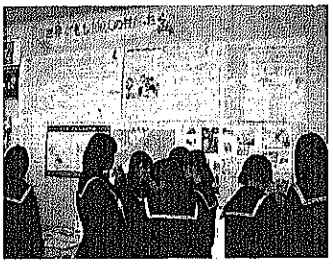
・みんな英語がうまかった。CDで聞いたのよりよかったです。
・とても心がこもっていて自分に訴えられた気がした。
・BGMとすごく合っていてとても感動しました。見ていた時は体が震えてしまうくらいに。
・涙が出そうになる位素晴らしかった。練習を聞いていてすごいな…と思った。私は出ていないけど、何か手伝いたかったので、展示物の手伝いをした。
・すごいとしか言えなかった。
・3年間で今まで英語朗読などあったことがなかったので、とてもすごかったと思います。出演者の一人一人の思いが一言一言に込められているということが伝わってきて、とても感動的でよかったです。
・授業でもやったけれど、生徒が読むと本当に世界中のことを考えなければならないという気持ちになりました。

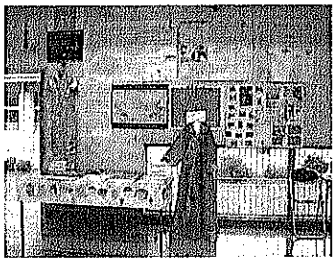
5～9時限◈

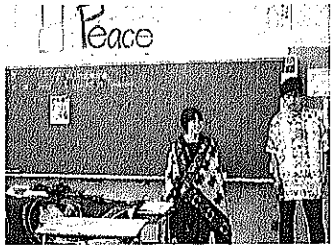
英語の教科書で「Housework in my family.」の単元を終え、次の単元で漁師、その次の単元で宇宙飛行士などが話題となる。そこで、職業名をジェンダーの視点から覚えることを12月の人権週間前に行った。この時期に家庭科で保育実習として保育園訪問をしている。保育士など職業名の多くは性差別的なものが英語にもあることを知るために、ALTとのゲームをきっかけとし、2学期末に人権をテーマにした授業に取り組んだ。千葉敦子さんのエッセイを通して、職業名の復習とその人なりの生き方について考えてみた。また、ゴスペル風に歌っている南アフリカの国歌を聞いた。間奏で牧師が説教をするところがあり、ディクテーション形式で埋めさせた。アフリカ人の英語を初めて聞いた人がほとんどで聞きとりにくそうだったが、リズム感あふれる音楽に心躍らせていたようだった。

（写真1）文化発表会で「英語朗読」を行った3年生

（写真2）展示を見る全校生徒や保護者


（写真3）ステージ発表終了後、中国語に関心を持った生徒達


（写真4）生徒が持ってきた民族衣装



（写真5）タンザニア紀行で紹介した民族衣装を試着したところ

（写真6）カンガという民族衣装を紹介した。

＜国歌を扱った6限目の生徒の感想（抜粋）＞

- なぜ今だに世界が平和、そして平等にならないのかが不思議だ。みんな早く考え方を変えてほしい。
- 差別にはいろいろある。その国によってまた問題になっていることが違うと思う。差別については世界的にも考えていく問題だと思った。
- 力強く人々の願いが伝わってきました。
- 何か心にジーンときた。
- 心にしみるような歌だった。
- やっぱり色とかで差別されるのはおかしいと思う。もし、色が黒い人が白くなっただけで扱いが違うようになるのは変だと思う。
- 曲を聴いただけではよくわからなかったけど意味を聞いてみると差別をなくすことを訴えていたのでびっくりした。こんな曲が世界に広がって差別がなくなればいいと思う。
- とてもよかった。アフリカの人が英語をしゃべるなんてびっくりした。
- 差別を無くして一人一人を大切にしなくてはいけないと思う。みんながみんなを愛して平等になったら、世界が平和になると思う。
- 何かすごくにぎやかで楽しい感じの曲であって、それに大切なことをしっかり伝えていてとてもよかった。
- この曲をあらゆる言語に訳して世界中の人に聞いてほしい。
- 最初はとても早口でびっくりしたけど、先生の解説で内容を聞いていいなぁと思った。自分の国を大切に思えるのは素晴らしいことだと思う。
- 現在になってもまだ差別がある国やそういう差別をしている人がいるなんて悲しくなりました。ある意味くやしいです。
- 女の人はやっぱり男の人より下とみられているということが悲しい。人はみんな平等なのに。黒人とか有色人種の差別など早くなくなればいいと思う。

その後、タンザニアの学校紹介を写真を使ってし、教育制度についても触れた後、教室の中での権利について考えた。（写真7、8、9、10）

（写真7）公立ムクワワ中等学校の生徒達

（写真8）タバタ小学校の生徒達

（写真9）ビジワジワ村では教室が不足し、野外で学習をしていた。

（写真10）私立のベンジャミン・ムカパ中学校の生徒

<タンザニアの学校生活と教室の中の人権を扱った8限目の生徒感想（抜粋）>

- 世界には私達と同じように受験を控えている人達や勉強を頑張っている人がいるんだなぁと思うとうれしくなった。世界に目を向けるととても気持ちが落ち着きます。差別が早くなくなればいいなぁと思いました。私もタンザニアに行きたくなりました。
- 発展途上国なのに自分達よりレベルの高い勉強をしていることに驚いた。
- タンザニアの人達が一生懸命勉強したり、楽しそうに笑っているのを見て、肌の色や話している言葉は違うけど、私達はみんな同じなんだと思った。
- 私はジェンダーフリーという言葉を初めて聞きました。今まで知らなかったことがとても恥ずかしいと思います。タンザニアに私も行きたいと思いました。価値観や文化、様々な違いを理解して認めたいなぁと思いました。
- タンザニアの人は笑顔がおおく、みんな仲がいい感じがした。経済は途上国だけど、笑顔は先進国だなぁと思った。

自分のクラスでは道徳時間にタンザニアの女性を撮った写真を見せた後、ジェンダーフリーを目指した授業を行った。3学期に考える多文化共生につなげたく、そのことを念頭に入れ、授業を行った。

10～11時限◈

3学期は多文化共生を道徳、学活で取りあげた。「世界がもし100人の村だったら」に「あなたとは違う人を理解すること、相手をあるがままに受け入れること、そしてなによりそういうことを知ることがとても大切です」という一節がある。多文化共生を考える時、何より自分の足元を見つめることが大切だと私は思っている。田代中学校にいる2人の中国人の生徒、とりわけ隣のクラスの生徒をもっと理解し、卒業までの2ヶ月を互いによりよいものとしてほしいと心から願い、授業を行った。

12～15時限◈

私は食文化に興味を持っていて、タンザニアに青年海外協力隊員として派遣されていた知人の話から、特にコーヒーに興味を持っていた。キリマンジャロと言えば日本になじみのある銘柄であるが、現地の人はコーヒーより紅茶（チャイ）を飲み、価格はインスタントコーヒーの方が高いということなどを聞いていた。また、タンザニアの食文化の特徴としてバナナをよく食べる。実際、首都から離れた移動途中、トイレ休憩に立ち寄ったところでも子供たちがバナナを持って寄ってきたことがあった。このバナナなど生で食べたことは数回あったが、マトケと呼ばれる芋のような味で現地の人がよく食べる揚げバナナを食べ損なったことは残念で、写真でしか生徒に伝えられなかった。しかし、コーヒーとバナナは私にとってタンザニア研修での課題の一つだった。入試前で大変な時期であったが、ちょうどこの時期に社会の公民で南北問題を学習していた。そこで、タンザニアの食文化を紹介するとともに、「食」から南北問題を考え、世界平和とはどういうことか一緒に考えたいと思い、授業を行った。タンザニアの経済を支えている「コーヒー」について取り上げた。生豆、タンザニアで買ってきた「アフリカフェ」や多国籍企業のコーヒーを1人ずつまわし、嗅覚に訴えたのは良かったと思う。シミュレーションゲームは計算がややこしく理解できなかったようで、農民役の生徒にもっと詳しく説明が必要だと思った。12、13限目の反省もあり、次のバナナの授業の途中に「コーヒーの秘密」のビデオを視聴させた。16限目は生徒に身近なハンバーガーを取り上げた。フード・ファースト・カリキュラム（ERIC国際理解教育・資料情報センター）にある「私たちの食べ物はどんな道を通ってきたか」や「食料生産にかかるエネルギー」を使って、世界の流通の面から考えることにした。「世界中から運ばれてくる野菜」の資料から想像以上に多くの国から輸入していることが分かり、びっくりしていたようであった。（写真11,12）

＜食を通して世界を考えた16限目の生徒感想（抜粋）＞

- バナナが食べれてうれしかった。食べ比べしたけど、見た目から全然違った。ネグロス島のバナナの方が見た目はあまりよくないけどおいしかった。このようなバナナも苦労して作られたんだろうなぁと思った。
- 日本は外国から輸入しているものがとても多いということが分かった。やはり日本付近（アジア）やアメリカなどからのものが多かった。南北問題についてはこれからも真剣に考えていかなければならないと思いました。
- 世界のマクドナルドのハンバーガーのことが知れておもしろかったし、食べてみたくなったのもあった。バナナの方は市販のものよりもやっぱりネグロス島のバナナの方がおいしかった。今まで勉強してきて、もっと世界の食のことが知りたい。

成果と課題◈

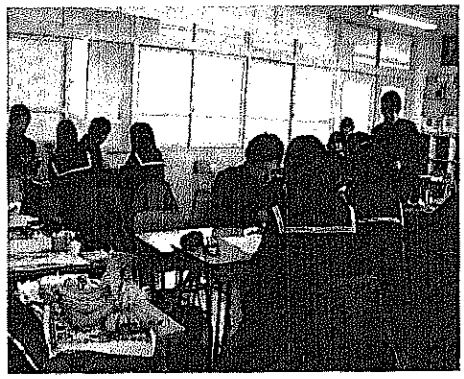
文化発表会で取り組んだ「世界がもし100人の村だったら」を元に、英語の授業で音楽を通して人権（特にジェンダー）、自分のクラスでは食から南北問題を取り扱った。反省としては、授業の最後に振り返りの時間をもう少し長めにとり、考えをもっと共有するべきだった。また、なぜこのテーマを共に考えるかということを授業の最初に十分に説明することも大切だと思った。自分のクラスでは学級通信で感想を載せたり、授業のねらいで説明不足だった点などを書くことをよく行ったが、できれば授業中に解決しておきたい点であり、今後の課題としたい。更に、食を通して世界の平和を考えていったわけだが、年度当初に学級活動など年間計画が決まっているので、学年すべてのクラスで授業実践ができなかった。特に中学３年は年度末は進路指導で大変であり、他の学級担任の先生に迷惑をかけることができないと思ったのは事実である。しかし、世界平和を考えることは社会科の最後の単元でもあるので、年度当初から学年全体で国際理解教育を計画的に取り組むことが重要だと思う。そのためにも学校の実態を考えた教材開発も今後の課題である。

英語の授業のまとめとして、文化発表会で展示の内容の一つであった「地雷」について英文を読む予定である。福岡で「地雷撤去キャンペーン」をしているNGOの紹介や筑紫哲也さんたちが行った活動をビデオで見たり、9.11の事件後、ジョン・レノンの音楽（イマジン）でアピールしたオノ・ヨーコさんの取り組み等を通して、自分に何ができるか共に考えたい。

学活では、平和とはどういうことかを一緒に考える予定である。自分達の学級目標であった「Peace」にむかって、一年間皆がどんな時にも優しい気持ちで協力的に頑張れたことを共に分かち合うとともに、自分達にできることから地道にやっていく姿勢を地球上に生きる人として持ちつづけようと確認したい。

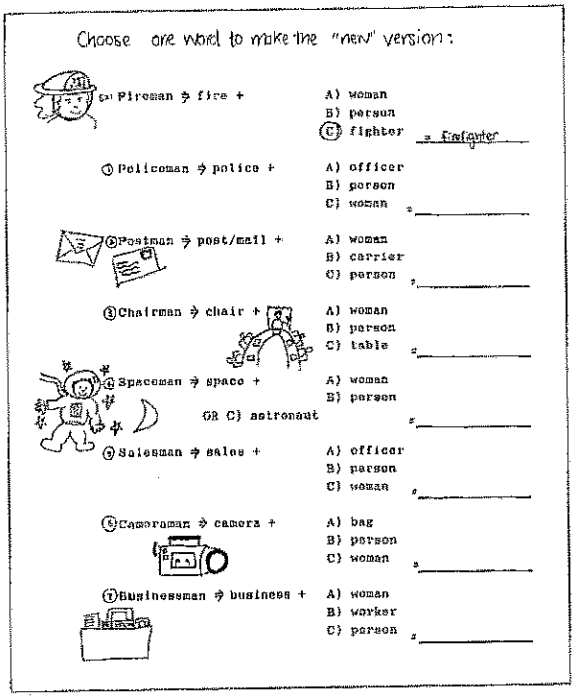
最後に、国際理解・協力はまず自分の身近にいる人との関係からということを念頭に入れ、今後も共に考え、行動していきたいと強く思っている。

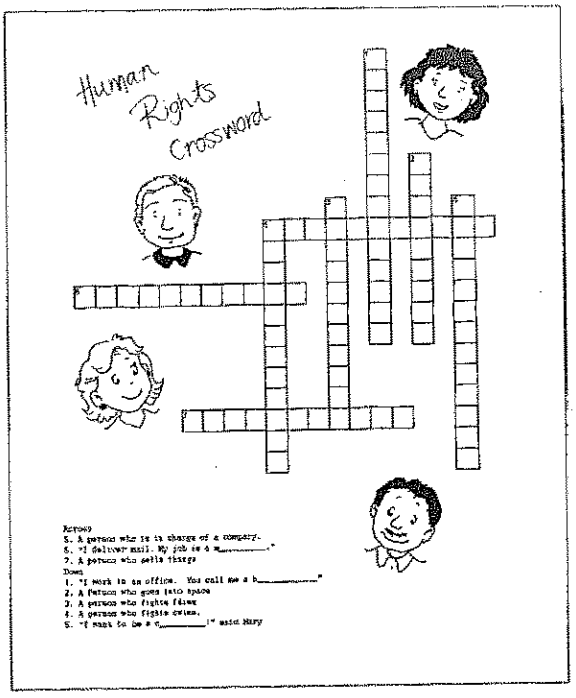
（写真11）キオスクで揚げバナナやコーヒーなどを売っていた。



（写真12）バナナの食べ比べをしている生徒達

資料1 5時限　職業名のワークシート





資料2 6時限　ゴスペル風に歌っている南アフリカの国歌の間奏から

キーワードを10問消し、聞き取りをした。

Nkosi Sikelel'i Africa
The kingdom of God says, "All people are equal". And it makes sense, since we are all created in his image, irrespective of race, colour, creed or gender.
Over land our God sees　God Bless Africa.
Hail our leaders, that they may be forever strong, yet humble.
Amen! Hallelujah!
Hail our men folk, that they may respect their womenfolk
Amen!　Hallelujah!
Hail to our womenfolk, that they may return their men's love and respect.　　Amen!
Hail all children, that they will know and respect all adults.
Hallelujah!
Hail to all parents, that they will return their children's love and respect.　　Amen!
For we all need one another...equally.
Lord, heal this beloved and anguished land. Let peace prevail...　Shalom, shalom.
God Bless Africa, it's children, all it's children.
That's what my prayer is all about, simply...

資料8 8時限 「教室内の人権」ワークシート

Class( ) No.( ) name( )

OUR HUMAN RIGHTS

I have a right to be happy and to be
treated will compassion in this room:
This means that no one will laugh at me or
Hurt my feelings.

I have a right to be myself in this room:
This means that no one will
Treat me unfairly because
of my skin color,
fat or thin,
tall or short,
boy or girl,
or by the way I look.

I have a right to be safe in this room:
This means that no one will
hit me,
kick me,
push me,
pinch me,
or hurt me.

I have a right to hear and be heard in this room:
This means that no one will
yell,
scream,
shout,
or make loud noises.

I have a right to learn about myself in this room:
This means that I will be
free to express my feelings
and opinions without being
interrupted or punished.

I have a right to learn according to my own ability:
This means no one will call
me names because of the way I learn.

JANUARY
1994

Class( ) No.( ) name( )

♡次の（ ）に適する語を考えて、書きましょう。㋐、㋒は最初の文字、㋑は最初の２文字を書いています。

OUR HUMAN RIGHTS

I have a (㋐) to be happy and to be
treated will compassion in this room:
This means that no one will laugh at me or
Hurt my feelings.

I have a right to be myself in this room:
This means that (㋒) one will
Treat me unfairly because
of my (㋓) color,
fat or thin,
tall or (㋔),
boy or (㋕),
or by the way I look.

I have a right to be safe in this room:
This means that (㋖) one will
hit me,
(㋗k) me,
(㋘p) me,
pinch (㋙),
or hurt (㋚).

I have a right to hear and be (㋛) in this room:
This means that no one will
yell,
scream,
shout,
or make loud noises.

I have a right to learn about myself in this room:
This means that I will be
free to express my feelings
and opinions (㋜) being
interrupted or punished.

I have a right to (㋝) according to my own ability:
This means no one will call
me names because of the way I learn.
～のために

(㋞)
1994

「教室内の人権」は、1994年からアメリカ合衆国ミネソタ州・DULUTHの公立学校の教室に掲げられている。2001年（平成13年）に佐賀県人権・同和教育研究会会長の内田先生が、海外派遣団として上記学校を訪問の際に感銘を受け、「ぜひこの精神を佐賀県内の学校に広めたい」と持ち帰ったものを、英語の授業で反意語やno one～などの復習としても使えるようにアレンジしたもの。（日本語訳も内田先生による）

Class(　)No.(　)Name(　　)

OUR HUMAN RIGHTS（私たちの人権）

◎私はこの教室の中で、思いやりのある待遇を受け、楽しめる権利を持っています。
このことは、誰も私を笑ったり、私の心を傷つけることができないことを意味しています。

◎私はこの教室の中で、自分らしく過ごす権利を持っています。
このことは、誰も私の肌の色とか、太っているとかやせているとか、背が高いとか低いとか、男の子とか女の子とか、見た目のために私を不公平に扱うことはできないことを意味しています。

◎私はこの教室の中で、安全に生活できる権利を持っています。
このことは、誰も私をたたいたり、けったり、押したり、つねったり、傷つけたりしないことを意味しています。

◎私はこの教室の中で、話を聞いたり、聞いてもらう権利を持っています。
このことは、誰もどなったり、金切り声をあげたり、大声で叫んだり、騒音を出したりしないことを意味しています。

◎私はこの教室の中で、自分自身について学ぶことができる権利を持っています。
このことは、自分の気持ちや意見を誰からも邪魔されたり、ひどい扱いをされたりすることなく自由に表現できることを意味しています。

◎私は自分の能力に応じて学ぶ権利を持っています。
このことは、誰もが私の学び方のことで、悪口は言わないことを意味しています。

参加動機およびプロフィール　宮原　香

平成13年7月に「地球共育の会・ふくおか」が行ったワークショップに参加し、開発教育を知りました。その後様々なワークショップへの参加を通して、教育という視点から次世代を担う生徒に国際協力などの課題を投げかけ共に考えていきたいと強く思うようになりました。特に、性別などにとらわれず人を理解することの大切さを感じています。担当している英語の授業で中学3年生を対象に、ジェンダーと地雷について4年連続取り組みました。ジェンダーについてはchairpersonなど職業名を覚えるページを扱う時、英語だけでなく日本語にも性差別の語が存在することを気付かせました。この授業を通して、差別的な考え方を無意識にしていると気付いた生徒が多かったようです。また地雷については、撤去活動についての長文を読むだけでなく、ビデオ視聴後福岡NGOネットワークのカンボジア地雷撤去キャンペーンの取り組みを紹介し、私達にできることを生徒と共に考えることができたと思います。タンザニアに青年海外協力隊員として派遣された知人の話を聞くうちに、コーヒーやバナナなどの食文化について興味を持つようになりました。人権教育を基盤とした国際理解教育の実践を今後も目指していきたいと思います。平成15年は「世界がもし100人の村だったら」の英語朗読を地域の文化祭でも発表を行いました。また、茶道などの日本文化を英語で世界に発信していくプロジェクト（国際交流デー）を2回企画しました。教材開発にも興味を持っています。

世界の文化・芸術から異文化理解を深め国際理解を進めるクロスカリキュラム

井手博之 IDE HIROYUKI
美術、技術家庭
御所浦町立御所浦中学校（熊本県）

実践教科名（時間数）	社会(2)音楽(4)美術(77)家庭(4) 特別活動 (2)文化祭展示(1)
対象生徒・学年	中学校（全学年）
対象人数	1年：37名 2年：39名 3年：30名 合計：116名

カリキュラム

実践の目的

異なる文化を持つ人々が、世界の中で協調・協力していくためには、その文化間の共通性や相違点を認識し、お互いの価値観や生活様式を受容・尊重しなくてはならない。このような認識に基づく異文化理解教育は、国際的相互依存の強まりのなか単なる「他国理解」の教育としてではなく、「自己・自文化理解」の教育や「国内の異文化理解の教育」を含んだ有機的な関係の中で構想されなければならない。

以上のことをふまえ、日常的な教科指導を中心とした教育活動の中で、国際理解教育、開発教育が実践でき、今後根付き浸透できるかを実践することを目的とした。「国際理解教育及び開発教育」の視点として5つの項目を設定した。

①多様性の尊重
開発を考えるうえで、人間の尊厳性の尊重を前提として、世界の「文化」の多様性を理解すること。

②開発問題の現状と原因
地球社会の各地に見られる「貧困」や「南北格差」の現状を知り、その原因を理解すること。

授業の構成

学年	1年	2年	3年
視点	④世界と私たちのつながり		
		②開発問題の現状と原因	
	①多様性の尊重	③地球的諸課題の関連性	
			⑤私たちのとりくみ
月			
7	美術（絵画）絵手紙を書こう		
9	家庭 タンザニアの食事		選択美術 ともにつくる思い出
10	文化発表会 現地で購入した民芸品や写真と補足資料		
11	美術（鑑賞） 描く喜び、世界の仲間	特別活動（性教育）HIV/AIDS	
12		美術（デザイン） 伝えよう大切なこと	社会（公民）貿易ゲーム
1		美術（工芸）手作りの楽しみ	
2		音楽（表現・鑑賞）世界の音楽	
3	家庭 食事作りに挑戦しよう		

③地球的諸課題の関連性
開発をめぐる問題と環境破壊などの地球的諸問題との密接な関連を理解すること。
④世界と私たちのつながり
世界のつながりの構造（相互依存）を理解し、開発をめぐる問題と私たち自身との深い関わりに気づくこと。
⑤私たちのとりくみ
「開発」をめぐる問題を克服するための努力や試みを知り、「参加」できる能力と態度を養うこと。

学年別授業構成

1年…文化や風土の相違点を学びながら、異文化理解を進める

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～3時限 美術 絵手紙を書こう ・多様性の尊重 ・日本や郷土のよさを探し、絵手紙に表現することで、タンザニアの生徒に伝える。	1. タンザニアの人たちに紹介したいことを町の自然や文化の中から探す。 2. 絵手紙の特徴を知り、絵と文で表現する。	・画用紙 ・水彩用具 ・筆ペン
4時限 家庭 私たちの食生活 ・世界と私たちのつながり ・食事の果たす役割や健康と食事の関わりについて知る。	タンザニアの食事を、食物の写真を通して考える。	・タンザニアでの写真
5時限 特別活動 文化発表会 ・報告 ・展示	<展示品> カリンバ・太鼓・ティンガティンガ・マコンデ・タンガ・アクセサリー・地図・教科書・ガイドブック・紅茶・コーヒー・ウガリ・研修先での写真をテーマ別に分けたもの <報告> 「100人の村」を元に、現地の写真をみせながら、日本とタンザニアの違いを紹介する。	・自作VTR ・各展示品
6～11時限 美術 描く喜び、世界の仲間 ・多様性の尊重 ・異なる風土や文化の違いの中から生まれる表現の豊かさや独自の魅力を発見し，味わう。 ・表現の多様さや独自の魅力を味わうことで，美術と文化や伝統との関わりに関心を深める。 ・様々な国や地域の同年代の子どもの作品鑑賞を通して、異文化間の相互理解の大切さを理解できるようにする。	1. 動物病院の建設 ティンガティンガの絵の特徴を知る。 「動物病院の建設」を読み取り、絵からわかる風土や文化を感じ取り・美術作品の鑑賞の楽しさを知る。 2. 世界の子どもの絵 教科書や資料集より様々な国の作品を鑑賞し、表現の多様さや独自の魅力を味わう。 3. タンザニアの子どもの絵 タンザニアの子どもたちが描いた絵から、自分たちにはないよさや美しさ、類似した点、異なる点などについて話し合い、タンザニアの風土や文化を考える。 4. 世界の美術 「国際協力」に紹介されている各国の美術作品や民族衣装などから、興味関心のあるものを見つける。 国や地域について知っていることや学んだことを、作品に現れた造形表現の特色や魅力とのかかわりを考えながら、レポートにまとめ友だちに紹介する。	・ティンガティンガの絵 ・自作VTR ・「国際協力」 〈独立行政法人国際協力機構〉
12～14時限 家庭 食事作りに挑戦しよう ウガリづくりに挑戦 ・多様性の尊重 ・タンザニアの日常食の調理ができる。 ・食生活の安全と衛生に留意し、食品や調理器具などの適切な管理ができる。	1. 調理計画を立てる ウガリ・ピラフ・スープの班に分け、それぞれに調理計画を立てる。 2. 調理実習 安全、衛生を考えた身じたくができる。 食材の基本的な調理操作ができる。 食材の安全で衛生的、かつ適切な取り扱いができる。 3. 食事作法を知る タンザニアでの食事の様子をビデオで見て、相違点を知る。ウガリの食べ方を知る。 4. 感想と評価 国や地域による調理や食べ方の違いや、文化や歴史による食生活の相違点を知り、味わうことができる。	・ウガリの粉 ・各食材 ・「ユニセフ子ども物語」 （日本ユニセフ協会・ホームページより）

2年…環境を中心に学びながら、異文化理解を進める

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1/2時限 美術 絵手紙を書こう ・多様性の尊重 ・日本や郷土のよさを探し、絵手紙に表現することで、タンザニアの生徒に伝える。	1. タンザニアの人たちに紹介したいことを町の自然や文化の中から探す。 2. 絵手紙の特徴を知り、絵と文で表現する。	・画用紙 ・水彩用具 ・筆ペン
3/4時限 特別活動 HIV/AIDS ・開発問題の現状と原因 ・氾濫する性情報を正しく処理するとともに、社会の一員としての責任ある態度や適切な行動を選択する能力を養う。	1. なぜ、HIV/AIDSはアフリカで蔓延しているのか知り、解決の方法を自分なりに考える。 エイズについての正しい知識を与え、エイズは自分の意志で予防できる病気であるという認識を持つ。 2. エイズ感染者からは普通の生活では感染しないことを知り、HIV に感染している人、またはその家族や周囲の人に偏見を持つことや差別をしないことが大切であることを理解する。	・自作VTR ・ワークシート ・「サブ・サハラ・アフリカでのHIV/AIDSの現状と日本の協力」
5/10時限 美術 伝えよう大切なこと 環境リーフレット ・地球的諸課題の関連性 ・感じたことや考えたことの有効な伝達方法について話し合う。 ・効果的に伝えるための材料や形・色などについて考え、その使い方を工夫する。 ・伝えたいことや主張したい内容の表し方を工夫してポスターなどに表現する。	1. リーフレットの役割 準備した資料を使い鑑賞し、どのようなメッセージが伝わってくるか感じ取る。 2. 資料集め 環境について「国際協力」や新聞記事、ニュースなどから集める。自分が表したい身近な問題や社会的な問題を図書、インターネットを使い深める。 3. コピーとレタリング 伝えたい内容を短い文で明確に表し、人の心を強くひきつけ、イメージを広げるようなコピーライトを考える。 4. アイデアスケッチ 独創的な新しいアイデアを生み出すよう、テーマを様々な角度で考え、数多く簡潔明瞭に描く。 5. レイアウト 絵と文字の配置、大小の変化、部分のクローズアップ、組み合わせに変化をつける。 6. 下絵 アイデアスケッチをもとに、形を整え明確な形に下絵をかきあげる。 7. 配色計画 表したい感じの色について組み合わせを考え、調和、明瞭、よく目立つなど色の関係を検討し具体的な配色計画を考える。 8. 彩色 順序、方法などについて考え、計画を立てて彩色する。 9. 完成と作品鑑賞	・「国際協力」 ・各種資料 ・写真 ・パソコン ・ワークシート
11/16時限 美術 手作りの楽しみ カリンバをつくろう ・多様性の尊重 ・実用性と装飾性とを兼ねた，楽しく演奏できるカリンバをつくる。 ・材料の性質をよく理解し，美しい形や構造を工夫した構想を練り，手づくりのよさを生かしてつくる。 ・制作の手順や方法を考え，計画をよく練ってつくる。	1. カリンバの紹介 カリンバの演奏をCDで聴き、タンザニアの音楽に親しむ。 カリンバの実物を見て弾いてみる。 材料や制作方法を知る。 2. 木取り シナベニアに各部品の寸法をかき入れる。 3. 切断 シナベニア・釘を切断し、ヤスリがけをする。 4. 組み立て ヘアピンをのばしキイをつくり、工程を確認しながら組み立てる。 余った板、割り箸などで補強し、よく響く共鳴箱を作る。 5. 完成 ヘアピンの長さを調整し音階を取る。	・シナベニア ・ヘアピン ・釘 ・接着剤 ・自作VTR ・CD
17/20時限 音楽 民族音楽にふれる ・多様性の尊重 ・世界の民族楽器の音色や奏法のおもしろさを味わおう。	1. 世界の音楽を聴こう インド：シタールとタブラー 弦楽器と打楽器の合奏の鑑賞 トルコ：メヘテルハーネ	・自作カリンバ ・太鼓 ・CD

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
・楽器によるリズムアンサンブルを楽しもう。 ・アフリカについて知り、カリンバの音や演奏を楽しもう。	管楽器と打楽器の合奏の鑑賞 アイルランド：イリアンパイプスとフィドル 弦楽器と管楽器の合奏の鑑賞 ボリビア・ペルー：フォルクローレ 弦楽器・管楽器・打楽器の合奏の鑑賞 インドネシア・バリ島：ガムラン 打楽器のアンサンブル、金属の響きの鑑賞 西アフリカ：ジェンベ 打楽器のアンサンブル、太鼓の響きの鑑賞 タンザニア音楽の鑑賞 各種打楽器を持ち寄ってアンサンブルを楽しむ。 2. ミニコンサートを開こう ミニコンサートを行い、グループごとにどんなところにアフリカ（タンザニア）らしさを表現したか発表し合う。 3. カリンバについて知ろう カリンバの呼び方と言語の違いについて知る。カリンバについて知る。自分で楽しんでみる。自分の気持ちをカリンバで表現してみる。	

3年…これまでに学習したことを総合的に学習する

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
①～③時限 美術　絵手紙を書こう ・多様性の尊重 ・日本や郷土のよさを探し、絵手紙に表現することで、タンザニアの生徒に伝える。	1. タンザニアの人たちに紹介したいことを町の自然や文化の中から探す。 2. 絵手紙の特徴を知り、絵と文で表現する。	・画用紙 ・水彩用具 ・筆ペン
④～⑧時限 選択美術　ともにつくる思い出フェリーを飾る絵をかこう ・多様性の尊重 ・仲間とともに発想したり、作業したりする楽しさを味わう。	1. テーマの決定 記念として残したいイメージについて意見交換をしながら、御所浦町の特色である「恐竜の化石・魚の養殖・自然」などより考える。 2. 資料集め ティンガティンガの作品を鑑賞し、モチーフのデフォルメ、鮮やかな色彩を絵に生かすことを考える。 町のシンボル（恐竜・花・島・木・魚など）となるもののスケッチや資料集めをする。 3. アイデアスケッチ テーマ別にアイデアスケッチをし、おおよそのイメージプランを決定する。 個別の発想や構想を全体構想にまとめていき、最終的なアイデアスケッチを決める。 4. 配色計画 遠くからでも、図案がはっきりし、明るいイメージとなる配色を考える。 5. 彩色 アルミ板に下塗り材をぬる。 背景色に塗る。 下絵を描く。 各部を描く。 細部の仕上げをする。 6. 完成 フェリーへの取り付け（業者） 7. 鑑賞 フェリーへ取り付け後完成式を行う。	・ティンガティンガの絵 ・アルミ合板 ・エナメル塗料
⑤～⑭時限 特別活動　HIV/AIDS ・開発問題の現状と原因 ・氾濫する性情報を正しく処理するとともに、社会の一員としての責任ある態度や適切な行動を選択する能力を養う。	1. なぜ、HIV/AIDSはアフリカで蔓延しているのか知り、解決の方法を自分なりに考える。 エイズについての正しい知識を与え、エイズは自分の意志で予防できる病気であるという認識を持つ。 2. エイズ感染者からは普通の生活では感染しないことを	・自作VTR ・ワークシート ・「サブ・サハラ・アフリカでのHIV/AIDSの現状と日本の協力」

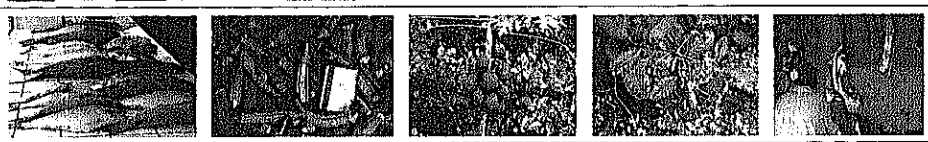
時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
	知り、HIV に感染している人、またはその家族や周囲の人に偏見を持つことや差別をしないことが大切であることを理解する。	
66~68時限 社会 世界平和と人類の福祉の増大（貿易ゲーム） ・世界と私たちのつながり ・世界に広がる人権問題とそれに対する取り組みについて理解し、国際的な理解と協力の必要性が高まっていることに気づく。 ・日本と世界の人権をめぐる課題などの比較を通して現代の日本社会の特質を見直すとともに、今後の日本の役割を考える。	1. 不平等な条件のもとで自由貿易がどのような結果をもたらすかを体験し、南北問題や開発途上国の立場を共感的に理解する。 2枚の写真を見て感じたことを発表する。 ゲームの説明を聞く。 ゲームをはじめる。 状況の変化を知る。 ・製品価格の下落 ・製品チェックに差がつく ・途上国への技術援助 ・資源の追加 ゲームの終了 各グループの所持金を確認し、優勝チームを決める。 勝因敗因の分析 2. 国際協力のあり方などについてのディスカッション まとめ	

授業の詳細

（実践については一部のみ掲載）

1年　4時限◆私たちの食生活
1年　12～14時限◆食事作りに挑戦しよう

タンザニアでの食事の風景や食材の写真をテーマ別に並べ、共通点や相違点を見つける。米やオクラなど

	資料とした写真	生徒のコメント
食事		・鶏肉、こめ、ポテトなど日本にあるものが多い。 ・メニューの種類が少ない。
食材		・魚、オクラは日本にある。 ・肉はつるしてある。
食事の様子		・みんなで同じ皿で食べている。 ・手で食べている。
機内食		・メニューの種類が多い。

日ごろ親しんでいる食材などより、世界とのつながりを感じ取っていくことを目的とした。

この題材の最後にタンザニアで食べた、ウガリつくりに挑戦しました。

生徒の感想

ユニセフ子ども物語を読んで

AFさん … あの二人の話を読んで、この二人はきっと私たちよりいい心の持ち主なんだろうと思いました。今、日本の子どもたちは、現在の生活に慣れてしまっているから、いざ、このような生活をすると、リタイヤする子どもたちが続出するだろうと思いました。逆にいうと、この子どもたちは贅沢をしていないから、こういう生活にも耐えられるんだと思いました。発展している先進国より、開発途上国の人々のほうが、とてもえらいと思います。えらいというより・・・すごい？？その物語を読んで、家でご飯を食べているとき「この今食べているご飯やおかずをその国の人々に分けられたら・・・。」と、思いましたが、届けられるはずもなく・・・。腐るので・・・。「同じ地球上なのにどうしてこんなに食べるものの違いが出てしまうんだろう？どうして、食べ物が取れるところと取れないところがあって、とれる国（近い国）の人は、わけないんだろう。」と思いました。調理実習でつくったウガリやスープ、ピラフは正直言ってあまり口にあいませんでした。まあ、国の人々はもっとおいしくつくるんでしょうが。「おいしくないから捨てちゃおう。と思って、捨てようとも（はきそうと）したけど、このウガリやスープ、ピラフを作るためにいったいどれくらいの材料を作って、その材料があれば、「死なずにすむ」人がどれくらいいるんだろうと思ったら、すごくもったいなくなりました。いってみれば（というより）私たち日本人は贅沢です。「1日3食」食べられる上に、水道だってあるし、勉強もできるし、お金さえあればおやつ（おかし）だって食べられます。とても贅沢です。今はユニセフとか、募金活動があるから、それを通じて助けられるんだなぁ。と思いました。これからは、食材はもちろんのこと、エネルギーなどの無駄づかいもやめようと思います。募金もやれることからしていきたいです。

MYさん … タンザニアのハンガ村では、あんなふうに水に困っているんだなあと思いました。そして、川に水を汲みに行ったりするのはまだ幼い子どもの仕事で朝早くから、1時間くらいかけて水汲みにいくなんてすごいなあと思います。私たちは蛇口をひねるだけで水が出てきて楽だけど、他の国では水を汲みに行ったりしています。だから私は、日本は恵まれているんだなって思いました。私たちも、キャンプのとき、水を汲みに行ったりしてとても大変でした。その時、やっぱり水は大事なんだなって思いました。私たちは水がないと生きていけないので、もっと水に感謝して、一滴一滴を大切に使っていこうと思いました。無駄づかいをしないようにしたいです。

調理実習を終えて

MAさん … 私は、今日はじめてタンザニア料理を作りました。私はタンザニアでは主食のウガリをつくりました。パンみたいな感じのものだときいて「おいしそうかも。」とか思ってつくりました。においはもちのにおいがしておいしそうだったけど、実際に食べてみると、小麦粉（コーンパウダー）の味

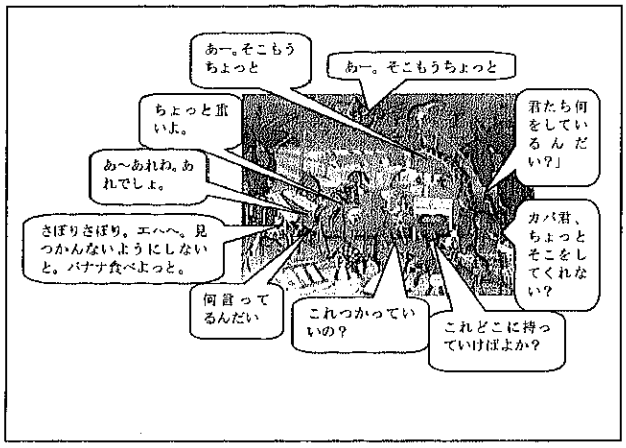
はしたけど、他には何の味もしませんでした。あんまりおいしくはありませんでした。他にもソース、肉のピラフがありました。ソースの味も薄かったです。やっぱり肉のピラフが一番おいしかったです。お米だったので、食べやすかったです。やっぱり日本の料理が一番おいしいなと思いました。ウガリはあんまりおいしくなかったけど、班でみんなで協力して、まあまあ上手にできてよかったです。時間も早くなったし、だいぶよくなりました。他の国の料理も食べられてよかったです。

SY君 … タンザニアの料理を食べて、日本の料理とはぜんぜん違い、ウガリは手でつかんでスープにつけて食べました。ちょっと自分ではあまり好きでありませんでした。でもピラフはとてもおいしかったです。

1年 6～11時限 ◈描く喜び、世界の仲間

様々な国の子供の絵を鑑賞し、異なる風土や文化の違いの中から生まれる表現の豊かさや独自の魅力を発見し、味わうことを主として学習を進めた。導入に、ティンガティンガの作品を鑑賞することから授業展開を考えた。

1時間目 ティンガティンガ



生徒が考えたセリフ

<参考>
タンザニアの絵http://inpic.cool.ne.jp/

2時間目 ティンガティンガ村の様子をVTRで見る。

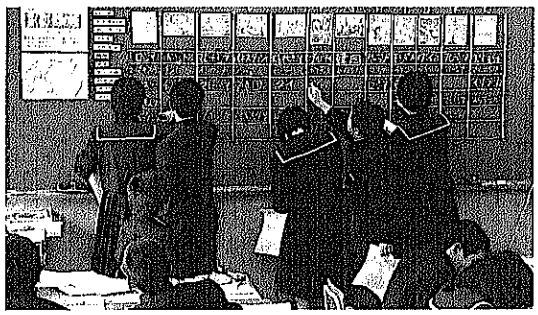
「動物病院の建設」にこめられたものを補足する。

現地で見た、公立の病院と私立の病院の違い。
(貧富の差)
ODA資金の使われ方。

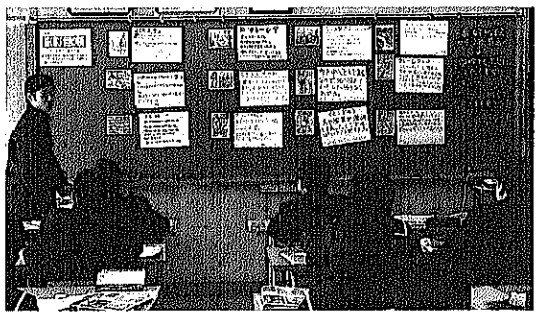
3時間目

事前に指定した国のことを調べて、世界の子どもの絵（教科書、資料集）がどこの国のものかを当てる。

①封筒に入っていた絵はどの国のものかな？



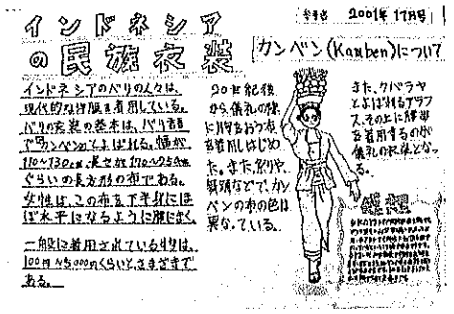
②班ごとに予想を発表します。



③一枚だけ気に入った絵を決めて、その絵のどの部分にその国らしさが表れているかを発表しました。

4・6時間目

「国際協力」で紹介されている世界の美術から興味あるものを選びまとめました。



私はインドネシアの民族衣装を調べて、その国もいっしょだと思いました。それは、インドネシアも時代にそって服が変わっているということがわかったからです。インドネシアも20世紀後半から胸を覆う布を着用し始めたり、カンベンの布の種類も異なるようになったからです。私はインドネシアの文化を調べられてよかったです。MK

一つの文化といってもとても深い理由があることにびっくりした。神に割れ物を使うのは宗教が影響しているんだなぁーと思った。もっと他の国のこんな文化を調べてみようと興味を持った。　HY

2年　4時限／3年　54時限◆HIV/AIDS

2学期の性教育の時間、2・3年生のそれぞれ1時間を、タンザニアで見てきたことを含めアフリカでのHIV/AIDS問題について授業をした。ここでは、「ユニセフの開発のための教育　地球市民を育てるための実践ガイドブック」（ユニセフ）からヒントを得たワークシートと「サブ・サハラ・アフリカでのHIV/AIDSの現状と日本の協力」（外務省）をまとめのプリント、訪問先の孤児院でのVTRを編集したものを使用した。サブ・サハラ・アフリカでのHIV/AIDSの蔓延をユニセフの「貧困の輪」にたとえて授業を進めた。これは、やや無理な点があり今後改善が必要であるが、生徒は真剣に考え、どこからHIV/AIDSの輪を断ち切るか真剣に考えてくれた。

授業の展開

HIV/AIDS蔓延の問題を例にとりながら、問題の循環図をつくって、その問題の仕組みを発見する。

問題の悪循環を断ち切り、よい循環を生み出すための方法を考える。

1．HIV/AIDS蔓延のしくみを発見する。

① カード8枚を各自読む。

② HIV/AIDS蔓延の悪循環を各自でつくる。それぞれの問題には、因果関係があり、カードで循環図をつくることができる。

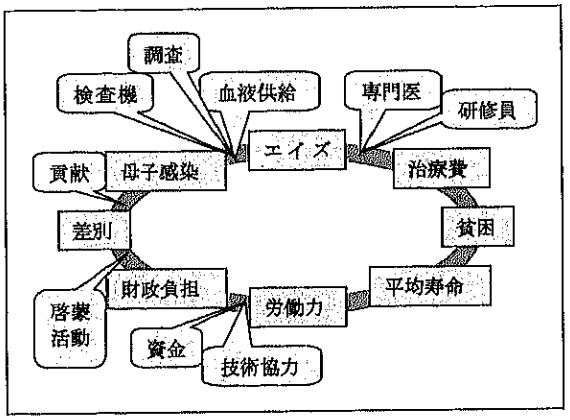
③ 各グループでひとつの悪循環を選ぶ。各自でつくった循環図を発表し、グループとしての循環図をひとつ選び、机上にならべる。

④ 図の発表
各グループでどのような循環図ができたか発表する。

2．悪循環を断ち切り、問題を解決する方法を考える。

① 悪循環を断ち切る場所を考える。
つながりを断ち切れば、問題が解決に向かう。自分ならどこを断ち切るか、グループで話し合う。

② 断ち切るための方法を考える。
断ち切る場所が決まったら、断ち切るための方法を出し合い、どのような方法をとるかを決めて、書きこむ。



生徒が考えた循環図と断ち切るための支援例

③ 発表
各グループどのような方法を考えたのか発表する。

④ 悪循環を断ち切る「国際協力」
発表の後、「HIV/AIDSの現状と日本の協力」を見て、悪循環を様々な場所で断ち切る活動があることを知る。
「日本の協力」が循環図の上のどこを切ろうとするものか、カードを循環図の上においていく。

⑤ 話し合い
グループごと、あるいは学級全体で、自分たちが考えた解決方法は同じだったか、あるいはどのようにちがっていたか、また、どのような解決方法なら有効か、などについて話し合う。

<ワークシート>
<HIV/AIDSの輪カード>

生徒の感想

MM君 … 僕は、この授業をして、エイズという病気のこわさをあらためて知りました。エイズのせいで差別を受けたり、仕事がなかったりして自分もその立場にいたら泣きたくなるくらい悲しいし、生きていくのも嫌になると思います。けれど、それでも一生懸命生きている子どもは、とてもすごいし、尊敬します。僕もこれから、どんな辛いことがあってもめげずにのりこえようと思います。それに差別もせずに、みんなが平等な社会にしたいです。

EIさん … エイズにかかっている人や、エイズで死んでいる人の数がたくさんいるのをはじめて知った。戦争やその他のことで亡くなる人よりも何倍も多くエイズに関することで、苦しんでいる人たちがいるんだとわかった。私たちは、今こうしてすごしているのはものすごく幸せなことなんだ。その中で、何人もの人が亡くなっている。だから少しでもエイズ孤児の増加が減るように、どうすればいいのか考えたけど、やっぱり考えきれないことがいっぱいあったので、もっと、考えられるようにしたい。その人たちがどうしたら一番幸せなのかなって考えたい。もし、私がなっていたら絶対つらいと思う。今日、エイズのことを勉強したので、いっぱいいろんなこと知れてよかった。もっと勉強したい。

SKさん … HIVに感染している人や、HIVで亡くなる人がたくさんいることをはじめて知りびっくりしたし、HIVで苦しんでいる人たちに比べると私たちはとても幸せだとおもいました。上の図を考えることはとても難しかったです。いろいろなことがつながって問題は大きくなると思います。どこで何かしなければこの問題はなくならないとおもうので、わたしにできることがあったら積極的に協力したいです。

RMさん … 今までなんかいかエイズの勉強をしたことがあるけど、今日の授業を行ってはじめて知ったことがたくさんありました。1年間で亡くなっている人は戦争などで亡くなっている人よりも多いことがわかり、すごくびっくりしました。こんな人たちを減らすために、いろんなボランティアに参加することが必要だということや、大人になってできることがあることを知って、自分も進んで参加しようと思いました。

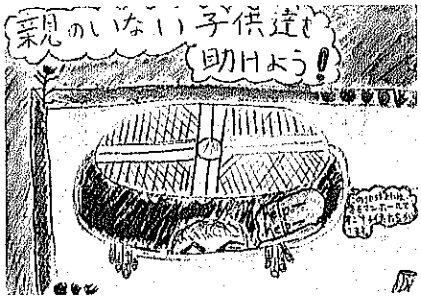
<参考資料・参考web>
「HIV／AIDS　サブ・サハラ・アフリカでのHIV／AIDSの現状と日本の協力」H13.2／14外務省　大臣官房国内広報課
「HIV／AIDS問題に対する効果的アプローチ」国際協力事業団
「国際協力」2000年2月号　2001年11月号　国際協力事業団
エイズを巡る世界の状況　深川　博志
http://www.jca.apc.org/unicefclub/library/aids.htm
ボラクラ　ボランティア学習クラブ
http://homepage1.nifty.com/kiyochan/

2年　5～10時限◈伝えよう大切なこと

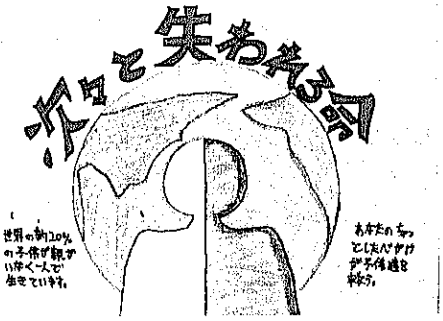
「環境問題」をテーマにリーフレットを制作した。はじめに、地球環境悪化の原因は先進国の過剰消費と並んで、開発途上国の人口問題と貧困の問題にあること、その原因を理解することを目的として、「国際協力」を使い学習をした。水不足や砂漠化、人口増大など生徒は知ってはいるが、それがなぜ起きているのか、その原因と影響までは理解していないことが多い。自分自身、毎月届くこの冊子をじっくり読むことは少なかったが、読み込んでいくほど丁寧でわかりやすく感心させられる。生徒には、最近のニュースやテレビで見たこと新聞記事など持ちより、身近なことと世界の国々のつながりを考えるきっかけとなったと思う。

世界には清潔な水を利用することのできない人が少なくとも11億人はいるとか。僕たちはもう少し水の使い方を考えたほうがよいと思う。

今、世界では水不足の問題が深刻化しています。このままでは私たちの未来に悪影響を及ぼすことでしょう。この地球のために私たちのために、水の使いすぎに注意し、節水に努力しましょう。



この地球上には、冬をマンホールで過ごす子どもたちがいます。



世界の約20%の子どもたちが、親がいなく一人で生きています。あなたのちょっとした心がけが子どもたちを救う。

2年　伝えよう大切なこと　作品例

2年　17～20時限◈民族音楽にふれる

① リズムに合わせた行進や、それぞれの音楽の特徴やよさなどを発表しあった。また、各国の民族楽器について学習し、奏法や合奏の仕方を想像した。

② それぞれの楽器を奏法別に分類し、音楽室にある身近な楽器との共通点や相違点を出し合って世界の楽器のつながりを感じ取った。

③ 演奏方法の特徴を感じ取ったり調べたりして、ワークシートにまとめ、自分たちなりにアフリカを表現した。演奏を体験することにより、アフリカ（タンザニア）音楽のいろいろな特徴を感じ取っているか相互評価した。アフリカ（タンザニア）音楽に親しむことができた。

私たちは「アフリカ」をひとつの国であるかのように捉えがちであるが、同じアフリカでも文化や言語が違うことを、サンザには何通りもの呼び方があることから伝えたい。また、アフリカ＝太鼓と捉えがちであるが、その音量の差からも太鼓とサンザを一緒に演奏しないことや、太鼓の見られる地域とサンザの見られる地域は違うこと、カリンバと一緒にリズムをとるには、シェケレが合うことを伝えたい。また、典型的なサンザでは、決められた音階がないことや、弾く人がいいと思った音でよいことを伝えたい。西洋音楽との違いやよさを感じ取らせたい。特に「好きなようにする」というおもしろさを感じ取らせたい。

＜参考＞
ヤマハおんがく世界めぐり
http://www2.yamaha.co.jp/u/world/index30.html

3年　4～53時限◈ともにつくる思い出

町に就航するフェリーが新しくなることをきっかけに、観光の目玉である恐竜（化石）をモチーフに絵を描いてもらえないかと観光企画課より相談があった。予算もつくということで、贅沢にアルミの合板を使い3年選択美術で制作に取りかかった。乗り物に描く絵ということで以下の点を条件に考えた。

① 遠くからでもわかりやすい色と形

② 小さな子どもも親しみやすいキャラクター
③ 町を象徴するものを描く

このことから、タンザニアのティンガティンガの絵を参考にすることにした。

生徒の感想

＜製作中＞

HH君　…　アイデアスケッチを考えるのが大変だったけど、色ぬりをするにつれてやる気が出てきました。とてもいい経験になりました。

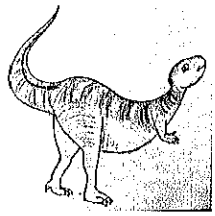
ATさん　…　参考にしたティンガティンガの絵は、単純ぽく見えるけど、その動物の特長とかがとらえてあって、形がおもしろく、色も鮮やかで私は好きです。アイデアスケッチが一番難しくて、何度もやり直したけど、色をぬっていくのがたのしくなってきました。はやく完成させたいです。

SFさん　…　恐竜を単純化して動きをつけることに苦労しました。中心の恐竜はまだこれから頑張りますが、背景がはいって特によくなってきました。

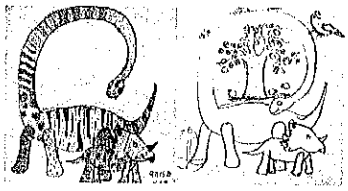
AMさん　…　今やっているのは黒の縁取りですが、板をきれいに合わせないと線がずれるので、その修正に苦労しました。でも、色ぬりは楽しかったです。

KMさん…　参考にした絵は木の表現にかわいらしさがありました。木を曲線で表現するのは難しかった

・アイデアスケッチはしっかり時間をかけました。



・ティンガティンガの絵のように、単純だけど生き生きとしたフォルムを描くのに苦労しました。

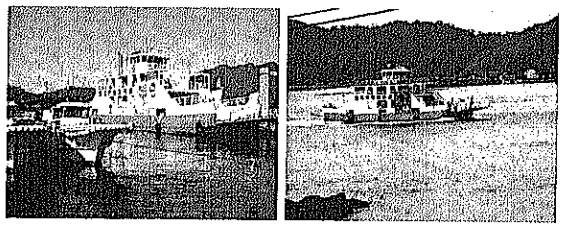


・模様を描いたり、様々なシンボルを入れながら構想しました。

・4×4mのサイズはかなり大きく教室いっぱいでした。はじめはローラーや大きな刷毛で塗ります。

・広いホールで制作することにしました。かなり完成に近づいています。

・完成の充実感・・・フェリーに貼り付けられたところを見ると、かなり大きく感じました。このときは、町長さんも駆けつけてくれ、とても喜んで下さいました。



・このフェリーは毎日学校の前を航行しています。遠くからでも絵がよく見え、町の人にも好評のようです。

＜絵の内容＞赤…ブラキオザウルスとトリケラトプス　ミカンの木とキジ
黄…ディノニクスの親子　あこうの木とキジ

3年　「ともにつくる思い出」一連の流れ

です。描くうちに楽しくなってきました。

FMさん　…　ペンキが薄く、何度も塗らないときれいな色が出なくて大変でした。かわいい恐竜の絵に仕上がってきてうれしいです。今回はフェリーに貼られるので、めだつ絵になるといいと思います。

MYさん　…　はじめに下塗りでローラーを使って塗りました。むらなくる塗るのが大変で何度も塗りなおしました。大きな絵で、みんなで協力してつくるところがいいなぁと思いました。土日も学校にきて制作しました。

＜完成＞

不具合発覚！

絵は、４×４ｍで制作したのですが、フェリーの側面であいているのは3.5×3.5ｍぐらいであるということがわかりました。フェリーに直接板を張り付けるわけにはいかなくなり、鉄骨の枠組みをする必要が出てきました。しかし、企画・観光課の方の計らいで、予算を補正し、枠組みを制作し取り付けることとなりました。

12月24日（火）フェリー運行の時間を割いてもらい、取り付けた様子を見学に行きました。実は、22日にはすでに取り付けてあり、フェリーが学校の前を通ることもあって、休日や朝から絵を見た生徒もいたのですが、停泊したフェリーを間近にみると迫力のあるものでした。船長さんの提案で「恐竜の島　御所浦」と絵の横に入れてあり、全体のバランスも整ったようです。

地域の人々の声

タクシー船の船長…「わたし、あの絵好きー。かわいらしくて。遠くからでもよく見えて。色もきれいでよく映える。」

教育委員会の方…「あの絵は、アフリカに行ったときの絵を参考にしたてな。ようできとる。」

HH君　…　描いているうちは気づかなかったけど、船に飾られてみてみると、思った以上によくできていたので驚きました。

ATさん　…　はじめて、完成したところをみて、よくできていて驚きました。色が鮮やかでとてもきれいだったからです。また、船を見た人たちから「絵を見たよ。」「よくかけてるね。」といわれてうれしかった。

SFさん　…　「町のよか宣伝になる。」といわれた。がんばって描いたのでたくさんの人に見てほしい。

KMさん　…　自分たちが描いた絵が、思った以上によく見えた。休みの日も制作をして大変だった。みんな一生懸命がんばったので、たくさんの人に見てもらい、フェリーに乗って御所浦に来てほしい。

AMさん　…　描いている途中の絵と、実際に張った絵は違って見えた。色の鮮やかさも映えていたし、より大きく見えた。

FMさん　…　２枚描いたことは、とても難しかった。以前は、１枚の絵を描く時に時間をかけたのに、今回は、短時間のうちにいいものができたことがとてもうれしい。みんなに、自慢したい。親からも、「おまえどんが、かいたんな。」と感心された。

MYさん　…　テレビ番組の取材もされて、とてもすごいことになったなぁと驚きました。みんなに自慢したくなるような絵になったと思います。

3年　55～56時限◇貿易ゲーム

ゲーム後のディスカッションでは、各国から１名ずつの代表で新たな班を作り、テーマを選択しディスカッションをした。

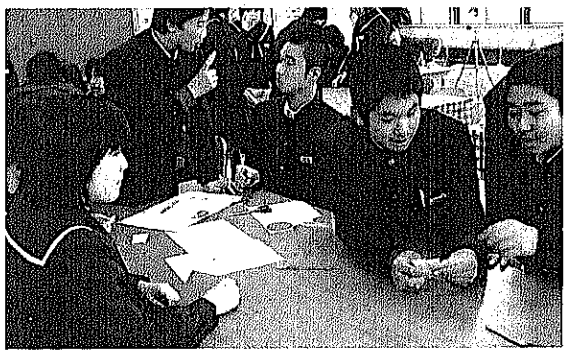
＜環境問題＞

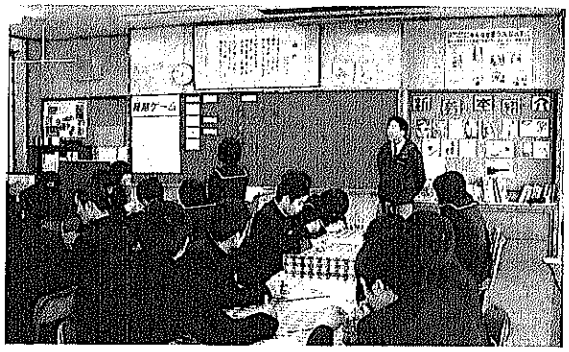
資源があるほうがゴミが出る。つくらないでいいものをつくってしまう。

国と国とのやり取りはぜんせん考えたり、知ったりしたことがなかったけど、今回勉強してすごく難しいと思えました。

＜南北格差＞

最初から先進国と途上国の差が広くて、途上国には学校が少ないから先進国とどんどん差がついていく





から途上国のほうにもいろいろものを与えて、平等にすべきだと思う。

僕の国は、貧しい国のほうだったけど、発展している国がほしがるものがあった。それをうまく使ってもうけることができたし、僕たちには知恵があった。逆に、お金持ちの国は裕福なので、必要のないものまでほしがろうとする。だから、金銭の感覚がなくなっていたと思う。その面で、僕たちは知恵がかっていたと思う。この授業をして、お金持ちの国はうらやましく、やっぱりお金がないと交渉も成立しないので腹がたった。今そんな状況なんだと思うと、少し怖い。

（今後、開発途上国の教育問題を考えるといいと思う。）

ゲームのときは楽しかったけど、自分たちの国ばかり見ていて、周りに目が行かなくなっていた。後からみんなの感想を聞くと、ものがあまり作れなかったとかいろいろな意見があって、道具を貸しておけばよかったなぁと思った。

＜援助（国際協力）＞

物を借りようとしても、資源やお金がない国には、何も貸してくれなかったし、物を作ったとしても品質が悪くて安くしか買ってもらえなかった。また貸してもらえるのは一つだけで、それではうまく作れなかった。少しだけ援助されても、それがうまく利用できなかったら意味がない。

自分たちは資源が少ない国だったのでとても大変でした。私たちは、安くしてでも自分たちの少ない資源を売ろうとして必死だったし、そうなってもしょうがなかったくらいお金がなくて大変だった。他の国の人の性格が悪く見えて、日本もいやな国（開発途上国にとって）だと思われるんだろうなぁと思いました。

＜参考資料＞
新・貿易ゲーム　開発教育協会

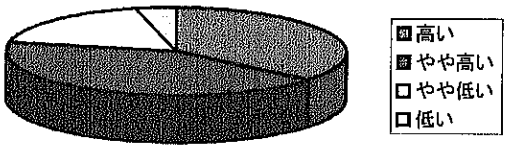
授業後アンケート

アンケート内容（国際理解測定尺度（IUS2000）
対象　1・2年生徒
時期　2003年3月17日
方法　1項目ずつ読み上げながら答えてもらう。

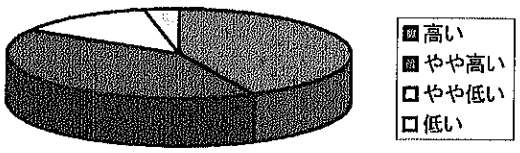
（1）人権の尊重

どちらも高い結果が見られるが、日ごろからの人権教育も合わさっての結果といえる。また最近の中東・北朝鮮情勢などよりマスコミ、メディア等で紹介される機会が多いことからの影響が考えられる。

他国民・他民族に対する感情



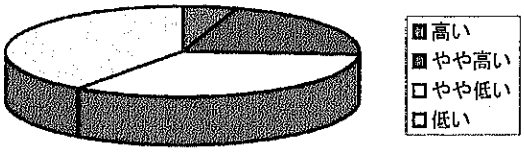
平等意識



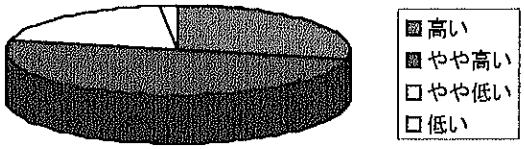
(2) 他国文化への理解

理解については低い結果が表れた。授業後の感想をみれば驚きや感銘を受けたという内容が多いことから、これまで知らなかったことを授業で行うことで、知る機会が多くなったことが原因であると考えたい。今後の授業実践を通し、経過をみていきたい。共感性については、(1) の人権の尊重と合わせて考えれば妥当な結果といえる。

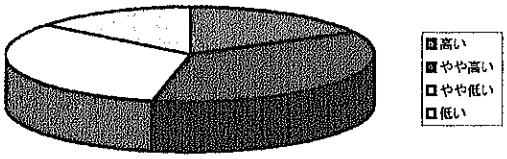
理解



共感性



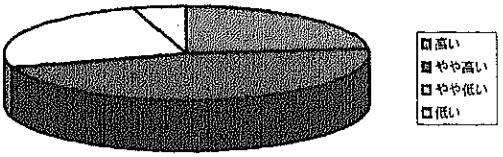
文化への関心



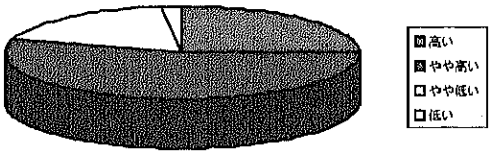
(3) 世界連帯意識の育成

どちらも、やや高いという答えが多数を占める。生徒は主に環境面での関心・認識が高い。このことは、本年度、本校が研究してきたGLOBEプログラムによるものであろう。国際協力に対しては、生徒会活動を通しユニセフ募金活動などを積極的に行っていることが理由といえる。今後、自分たちの生活の中でできる国際協力や支援のあり方など考えさせることで本質に迫らせたい。

人類の共通課題への関心、認識



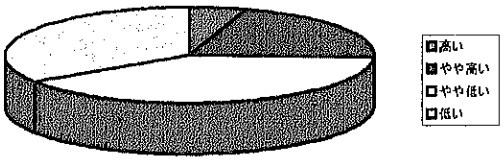
国際的協力機構への協力的な態度



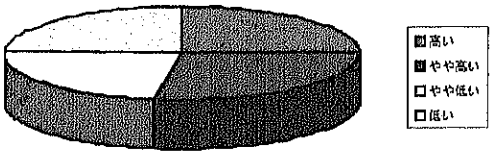
(4) 外国語への理解

他項目と比べても低い結果となったが、地域性によるものが原因と考えられる。町内にはALTの講師がいるくらいで、学校の授業以外に外国人と接する機会はほとんどない。よって必要となる場面がないことが考えられる。また、対象が1・2年生ということで、生徒本人もまだ学習中でこれからできるようになるものという意識もあるのだろう。

外国語の理解



外国語への関心



成果と課題

国際理解教育は、どの教科でも実践できることがわかった。今回は、タンザニアでの研修終了後、2学期に入ってのカリキュラム提案、実践となったため、教科が限られてしまったが、年度当初より意識して取り組むことで、様々な場面での実践が可能であろう。これらの学習を基にして総合的な学習の時間で、国際理解教育に関して生徒自ら興味関心を持ち、課題を見つけていくこともあろう。ただし、授業を行った時期がまちまちであり、生徒の記憶がうすれるなどしたことから、単発的な授業になった部分があったことも事実である。

今後のより深まりのある実践を目指すには、1．各教科の縦横のつながりを洗い出す。2．国際理解教育で育てたい生徒像を明確にする。ことが必要である。

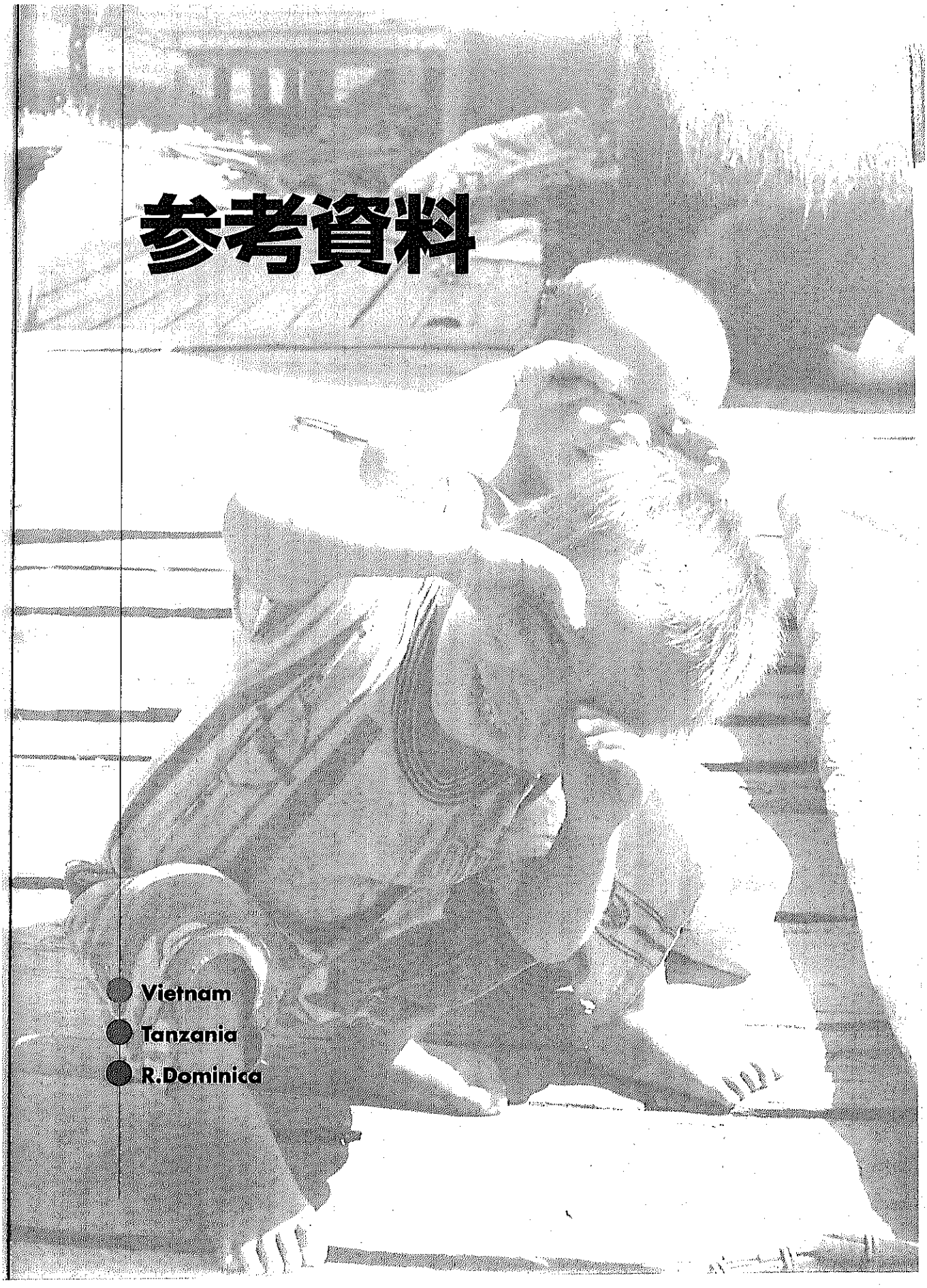
JICAの国内での研修で様々なアクティビティを体験させてもらったが、授業づくりに大変参考になった。これらの手法は、開発教育だけでなく様々な教科に応用可能であり、生徒が疑似体験をしながら自ら考え課題を持ち、自ら判断し、自ら表現し、自分の道を切り開いていく「確かな学力」を育てる現在の教育課程に適したものであった。

最後に、安全・平和などとても恵まれた中で生きていることをあたりまえに思っていたが、世界中のごく一部の国であるということを実感として受け止められた。やはり事実は現地で感じ、知り、人と触れ合うことが一番である。私たちには、今回のJICAの海外研修をはじめ、参加する意思があれば開発途上国へ行くボランティア活動から、国内でできる交流活動など様々な機会がある。今回の学習を通じて、生徒が出会うであろう、そうした活動への参加に対しての前向きな意欲を後押しできたのではないかと思う。

参加動機およびプロフィール　井手　博之

4年前タイの農村地区でのボランティア活動への参加が、最も大きな今回の研修への応募動機となりました。3泊4日と期間は短かったが、各家庭にホームスティし、小学校での文化交流や鶏舎小屋建設等を行いました。この体験を通して、自分ができることを考え、実行に移し、同じ場所で同じ時間を共有するボランティア活動の大切さを学ぶことができました。このことを教室の子ども達に話すことで、子ども達の心の中にも遠い国の話ではなく身近に感じ、「何かしたい」という気持ちが高まる様子を目の当たりにしました。自分自身の達成感とともに、教職員であるからこそできることとして、子ども達に今回の体験を返すことができると確信しています。開発教育への取り組みとしては昨年度の沖縄修学旅行に際し、総合的な学習の時間のテーマを「平和」として取り組んだ結果、生徒達は自分達にできる国際協力について学ぶことができました。開発教育については、生徒会活動の中で常に「気付き」「考え」「行動する」という意識を持たせながら活動を進めてきました。

参考資料



- Vietnam
- Tanzania
- R.Dominica

事前研修

国内機関研修

実施時期：平成14年７月
実施場所：JICA各国内機関
研修内容：開発途上国の現状と課題
ODAとJICAについて

東京研修

実施時期：平成14年７月29日(月)～30日(火)
実施場所：JICA東京国際センター（TIC）

全国から集結した熱意ある先生方。小学校、中学校、高校の枠を越え、意見交換。名刺づくりに取り組み中。

「開発教育」その歴史と実践について全体講議中。

海外研修をいかに「授業」で還元できるか?!
授業案づくりとその発表、企画からプレゼンテーションまで、力が入ります。

工作?!いえいえ、世界の"富"の流れを体験・体感しているのです。
～貿易ゲームの実践より～

東京研修日程

7月29日(月)
第1日目

参加者同士の親睦を図り、且つ、お互いの状況を理解しながら、問題意識・課題の共有を図ることを目的とする。

13:00～	受付開始	TIC本館ロビー
14:00～14:30	開会 1．主催者挨拶 国際協力機構　国内事業部長　　湊　　芳郎 TIC施設説明　　TIC特別業務室　湯本　真知子 2．同行者紹介 3．事前研修予定説明	オリエンテーションルーム （本館4階）
14:30～15:10	自己紹介（※2部屋×6グループに分かれて実施）	セミナールームA・B 多目的ホール
15:20～	テーマ別ディスカッション ・教科や学校で抱えている問題を出し合い、関心のあるテーマについて話し合いながら、模擬授業案を作成する。 ・小学校・中学校・高校教師を混在させた形で全体を7～8名×12グループ、2部屋に分かれて討議する。	セミナールームA・B （別館2階） 多目的ホール（別館1階）
17:20～17:30	休憩	
17:30～18:20	テーマ別ディスカッション発表 ・6グループずつ（各部屋ごと）の中で発表しあう。	セミナールームA・B 多目的ホール（別館1階）
18:30～	事例発表 横浜市立横浜商業高等学校の取り組み 講師：小市　聡教諭（平成13年度高校教師海外研修ベトナムコース参加者）	オリエンテーションルーム （本館4階）
19:15～19:30	派遣国別自己紹介	

7月30日(火)
第2日目

午前は開発教育を実践するための具体的な手法を学び、午後は海外での研修を、より実りの多いものとするため、渡航の準備や現地での状況把握を行うことを目的とする。

8:50～10:15 （パート1） 10:15～11:45 （パート2）	開発教育アクティビティの紹介 ・異文化やコミュニケーションについて扱ったアクティビティを実践しながら紹介する。 講師：湯本浩之氏（開発教育協会） 中村絵乃氏（開発教育協会） 第1班：パート1「新貿易ゲーム」、パート2「バーンガ」 第2班：パート1「バーンガ」、パート2「新貿易ゲーム」	セミナールームA・B （別館2階） 多目的ホール（別館1階）
11:45～12:00	休憩	
12:00～	開発教育概論　　講師：湯本浩之氏（開発教育協会） ・開発教育の考え方、総合的な学習の時間への導入などについての動きを整理する。 実践報告書（教材集）作成にあたってのポイント	多目的ホール
12:40～	昼食	食堂または各自
13:40～	教材集の作成について　　国内連携促進課　鈴木　幸枝 ・研修報告書の作成と提出に関する説明 ・実践報告書（教材集）の趣旨説明と、提出方法について	多目的ホール
14:15～	休憩	
14:30～	コース別打ち合わせ JICA同行者を中心に、現地での視察の目的、ねらい、訪問先での対応等について話し合う。	セミナールームA セミナールーム12 セミナールーム13 セミナールーム15
15:45～	渡航手続等説明　　各旅行代理店より ・パスポート他関係書類の手交と、提出方法についての説明	多目的ホール セミナールームB 多目的ホール 多目的ホール
16:30～	休憩、荷物整理等	
18:00～20:00	結団式	体育館